

## 第2章 アンケート調査の結果

## 第2章 アンケート調査の結果

### 第1節 就業の実態

#### 1-1 属性

アンケート調査に回答した修了生1,499人の性別をみると、男性が75.5%(1,132人)、女性が24.2%(362人)となっており、男女の比が3:1の割合となっている(図1)。

また、彼らの出身訓練科をみると、機械システム系が37.2%、電気・電子システム系が20.7%、情報システム系が17.3%、居住システム系とデザイン・その他の訓練科出身者がそれぞれ12.3%となっている(図2)。

さらに、年齢別にみると、25歳~30歳未満の者が35.8%と最も多く、次いで、25歳未満の者が26.0%、30歳~35歳未満の者が20.0%、35歳以上の者が17.5%となっており、20歳代以下の者と30歳代以上の者の比が6:4の割合となっている(図3)。

短期大学の先発校(旧東京職業訓練短期大学校)が開校25年であることから、「40歳以上」の区分に入る修了生数が少なく、先発校の1期生は、現在45~46歳位である。

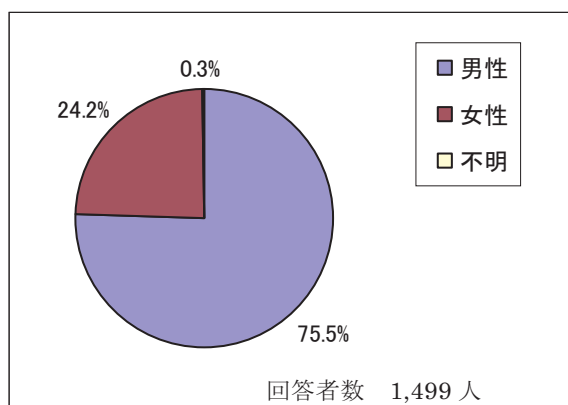


図1 回答者の男女別

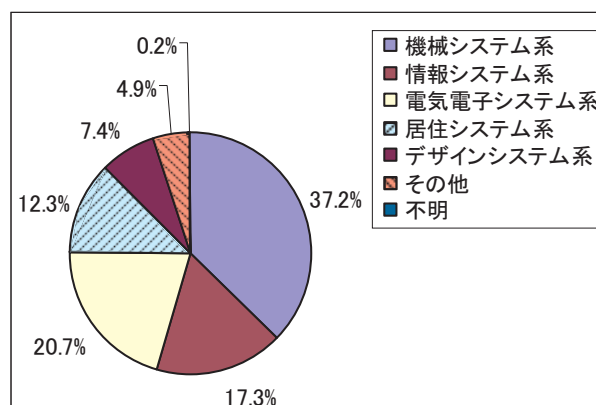


図2 回答者の出身訓練系別

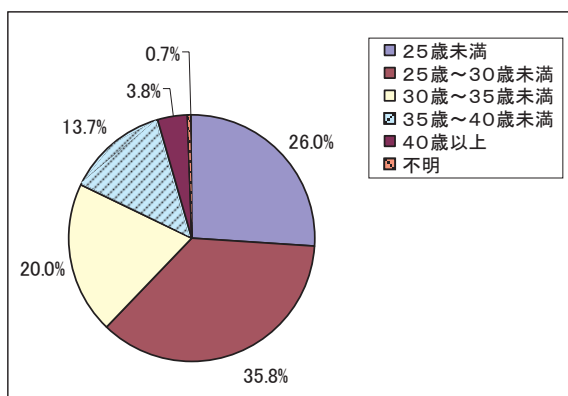


図3 回答者の年齢別

### 1-2 修了時の進路状況

修了時の進路をみると、就職した者が 93.8%(1,406 人)と最も多く、編入学を含めて就学進学した者は僅か 3.5% (53 人) となっている。いずれの訓練系でも「就職」は高率となっている(表1)。就学進学者のうち、大学へは 50.9%(27 人)の者が、各種専門学校へは 30.2%の者が就学している(図4)。

修了時の就学進学率が少ないのは、経済的面も原因とは考えられるが、短期大学の設立趣旨(テクニシャン・エンジニアの養成)に沿った中で、卒業生は専門教育訓練を受けていること、さらに、旧労働省系の上部教育訓練機関の受入れ人数枠が少なかったためと考える。また、旧文部省系大学・大学院への進学については、編入・入学資格が短期大学校修了生にはほとんど与えられていなかったからである。

表1 修了後の進路 単位:%、( )内は実数

区分	全体	就職	就学進学 (編入含む)	その他	不明	
全体	(1,499) 100.0	(1,406) 93.8	(53) 3.5	(34) 2.3	(6) 0.4	
修了訓練系別	機械システム系	(557) 100.0	(522) 93.7	(20) 3.6	(13) 2.3	(2) 0.4
	情報システム系	(259) 100.0	(249) 96.1	(4) 1.5	(6) 2.3	(0) 0.0
	電気電子システム系	(310) 100.0	(288) 92.9	(16) 5.2	(5) 1.6	(1) 0.3
	居住システム系	(185) 100.0	(173) 93.5	(8) 4.3	(3) 1.6	(1) 0.5
	デザインシステム系	(111) 100.0	(106) 95.5	(1) 0.9	(4) 3.6	(0) 0.0
	その他	(74) 100.0	(66) 89.2	(4) 5.4	(3) 4.1	(1) 1.4
	不明	(3) 100.0	(2) 66.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3

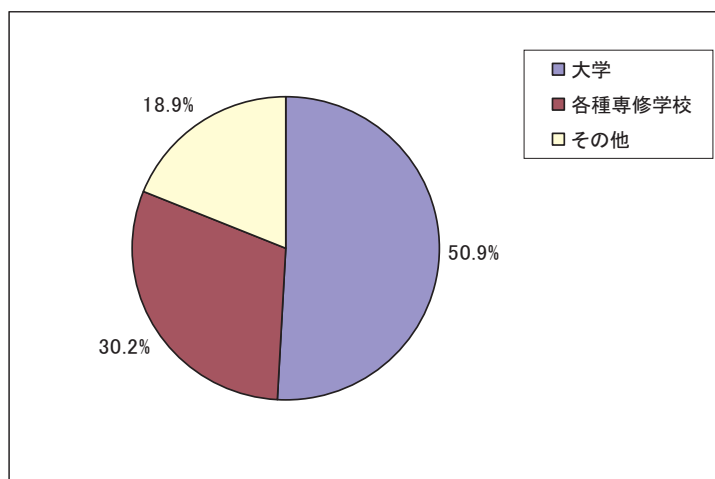


図4 就学進学の進路

## 1-3 修了生の現況について

現在、修了生はどのように職業生活をしているのか、現況を明らかにするため、就労状況と仕事内容について尋ねてみた。

修了生の就労状況についてみると、現在「働いている」者が89.5%と、およそ9割の者が何らかの仕事に就いている。一方、「仕事を探している」者が3.9%である(表2)。

修了訓練系別にみると、デザインシステム系及びその他では「働いている」者がそれぞれ8割程度であり、機械システム系など他の訓練系に比べてやや低率となっている。また、デザインシステム系では、「家事をしている」ものが約1割もいる。

性別でみると、男性に比べて、女性では「働いている」者が8割強、「家事をしている」者が1割強となっており、職場から離れている者がやや多い。

年齢別にみると、25歳未満では「仕事を探している」者が6.2%とやや多い。また25歳～35歳未満では「家事をしている」者が他の年齢に比べてやや高率となっており、女性修了生が子供の育児期にあることが窺える。

表2 就労状況

単位: %、( )内は実数

区分	全体	働いている	学校に在学している	家事をしている	仕事を探している	その他	不明	
全体	(1,499) 100.0	(1,342) 89.5	(20) 1.3	(40) 2.7	(58) 3.9	(17) 1.1	(22) 1.5	
修了訓練系別	機械システム系	(557) 100.0	(508) 91.2	(6) 1.1	(0) 0.0	(24) 4.3	(8) 1.4	(11) 2.0
	情報システム系	(259) 100.0	(232) 89.6	(4) 1.5	(11) 4.2	(11) 4.2	(0) 0.0	(1) 0.4
	電気電子システム系	(310) 100.0	(278) 89.7	(6) 1.9	(6) 1.9	(11) 3.5	(4) 1.3	(5) 1.6
	居住システム系	(185) 100.0	(171) 92.4	(3) 1.6	(4) 2.2	(3) 1.6	(2) 1.1	(2) 1.1
	デザインシステム系	(111) 100.0	(90) 81.1	(0) 0.0	(11) 9.9	(6) 5.4	(2) 1.8	(2) 1.8
	その他	(74) 100.0	(60) 81.1	(1) 1.4	(8) 10.8	(3) 4.1	(1) 1.4	(1) 1.4
	不明	(3) 100.0	(3) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
性別	男性	(1,132) 100.0	(1,037) 91.6	(14) 1.2	(1) 0.1	(49) 4.3	(11) 1.0	(20) 1.8
	女性	(362) 100.0	(300) 82.9	(6) 1.7	(39) 10.8	(9) 2.5	(6) 1.7	(2) 0.6
	不明	(5) 100.0	(5) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
年齢別	24歳以下	(390) 100.0	(334) 85.6	(16) 4.1	(6) 1.5	(24) 6.2	(3) 0.8	(7) 1.8
	25歳～30歳未満	(537) 100.0	(488) 90.9	(4) 0.7	(17) 3.2	(15) 2.8	(7) 1.3	(6) 1.1
	30歳～35歳未満	(300) 100.0	(270) 90.0	(0) 0.0	(11) 3.7	(12) 4.0	(5) 1.7	(2) 0.7
	35歳～39歳	(205) 100.0	(189) 92.2	(0) 0.0	(4) 2.0	(6) 2.9	(1) 0.5	(5) 2.4
	40歳以上	(57) 100.0	(52) 91.2	(0) 0.0	(1) 1.8	(1) 1.8	(1) 1.8	(2) 3.5
	不明	(10) 100.0	(9) 90.0	(0) 0.0	(1) 10.0	(1) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0

## 1-4 就労実態

## (1) 勤続年数

現在「働いている」と回答した89.5%の修了生(1,342人)に対して、現在までの勤続年数を尋ねてみると、「10年以内」の者が29.9%と最も多く、次いで「10年超」

の者が 25.6%、そして「5 年以内」の者が 15.5%と続いており、勤務年数が 3 年を超えている者は 71.0%、5 年を超えている者は 55.5%である(表 3)。 また、平均勤務年数は 7.09 年となっている。

訓練系別にみると、平均勤務年数が最も長いのは電気電子システム系の 7.67 年、次いで機械システム系の 7.44 年となっており、5 年を超えて勤務している者はそれぞれ約 63%を占めている。一方、平均勤務年数の短いデザインシステム系では、5 年を超えて勤務している者は約 45%となっている。

次に、性別をみると、男性では勤務年数が 5 年を超えて勤務している者は 62.5%、さらに 3 年を超えて勤務している者は 76.2%を占めている。一方、女性ではそれぞれ 30.7%、52.7%となっており、男性に比べて女性の方が長く勤める者が少ない。また、平均年数を比べてみると、男性の方が女性に比べて、2.62 年も長く勤務している。女性の場合、「10 年超」の者が 5.7%と激減しており、結婚適齢期を迎え、家庭に入る者が多いと考えられる。

表3 現在までの勤務年数 単位:%、( )内は実数

区分	全体	1年以内	2年以内	3年以内	5年以内	10年以内	10年超	不明	平均年数	
全体	(1,342) 100.0	(129) 9.6	(114) 8.5	(112) 8.3	(208) 15.5	(401) 29.9	(343) 25.6	(35) 2.6	7.09	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(44) 8.7	(33) 6.5	(41) 8.1	(80) 15.7	(154) 30.3	(146) 28.7	(10) 2.0	7.44
	情報システム系	(232) 100.0	(26) 11.2	(24) 10.3	(20) 8.6	(40) 17.2	(84) 36.2	(29) 12.5	(9) 3.9	6.44
	電気電子システム系	(278) 100.0	(20) 7.2	(19) 6.8	(20) 7.2	(35) 12.6	(86) 30.9	(89) 32.0	(9) 3.2	7.67
	居住システム系	(171) 100.0	(18) 10.5	(19) 11.1	(15) 8.8	(30) 17.5	(45) 26.3	(42) 24.6	(2) 1.2	6.80
	デザインシステム系	(90) 100.0	(12) 13.3	(12) 13.3	(8) 8.9	(14) 15.6	(17) 18.9	(23) 25.6	(4) 4.4	6.14
	その他	(60) 100.0	(8) 13.3	(6) 10.0	(8) 13.3	(8) 13.3	(15) 25.0	(14) 23.3	(1) 1.7	6.47
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	2.67
性別	男性	(1,037) 100.0	(84) 8.1	(61) 5.9	(78) 7.5	(142) 13.7	(323) 31.1	(326) 31.4	(23) 2.2	7.68
	女性	(300) 100.0	(43) 14.3	(53) 17.7	(34) 11.3	(66) 22.0	(75) 25.0	(17) 5.7	(12) 4.0	5.06
	不明	(5) 100.0	(2) 40.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(3) 60.0	(0) 0.0	(0) 0.0	6.40
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(55) 16.5	(73) 21.9	(76) 22.8	(108) 32.3	(10) 3.0	(2) 0.6	(10) 3.0	3.27
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(56) 11.5	(23) 4.7	(21) 4.3	(69) 14.1	(297) 60.9	(7) 1.4	(15) 3.1	7.29
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(10) 3.7	(12) 4.4	(11) 4.1	(20) 7.4	(60) 22.2	(157) 58.1	(0) 0.0	9.24
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(5) 2.6	(5) 2.6	(4) 2.1	(7) 3.7	(24) 12.7	(137) 72.5	(7) 3.7	9.57
	40歳以上	(52) 100.0	(1) 1.9	(1) 1.9	(0) 0.0	(4) 7.7	(5) 9.6	(38) 73.1	(3) 5.8	9.44
	不明	(9) 100.0	(2) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(5) 50.0	(2) 50.0	(0) 0.0	10.50

## (2) 業種について

修了生がどんな産業界で働いているのか、業種について尋ねてみると、「製造業」が 44.7%と最も多く、次いで「情報・サービス業」が 18.2%、「建設業」が 11.9%、「卸小売・金融保険業」が 10.6%と続いている(表 4)。

訓練系別にみると、機械システム系及び電気・電子システム系では「製造業」に、居住システム系では「建設業」にそれぞれ5割以上の修了生が就いている。一方、情報システム系では「情報・サービス業」を中心に、またデザインシステム系では「製造業」を中心に各業種にばらついて仕事に就いている。情報システム系は「建設業」を除いた各業種に極端なカタよりがなく就業しており、これは在学中に習得した専門分野が広範な業種で活用されていることを表している。

次に、性別でみると、男性の修了生は「製造業」で5割を占めているのに対し、女性の修了生は、広範な業種にわたって就業している。女性の場合、在学中に情報システム系やデザインシステム系及びその他に在学した者が多かったからと推察される。

年齢別にみると、いずれの年齢区分でも「製造業」に多くの修了生が就業しているが、特に、30歳代の年齢区分では50.3%の者が「製造業」に就いており、30歳未満の年齢区分では41.6%であり、製造業に就く若者が少なくなっている傾向が見られる。一方、「卸小売・金融保険業」に就いている者は、30歳未満の年齢区分では11.9%、30歳代の年齢区分では7.8%となっており、年齢が若いほど「卸小売・金融保険業」で就労している者が多い。

表4 業種

単位：%、( )内は実数

区分	全体	建設業	製造業	情報・サービス業	卸小売、金融保険	その他	不明	
全体	(1,342) 100.0	(160) 11.9	(600) 44.7	(244) 18.2	(142) 10.6	(179) 13.3	(17) 1.3	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(29) 5.7	(318) 62.6	(60) 11.8	(45) 8.9	(51) 10.0	(5) 1.0
	情報システム系	(232) 100.0	(5) 2.2	(64) 27.6	(84) 36.2	(37) 15.9	(36) 15.5	(6) 2.6
	電気電子システム系	(278) 100.0	(23) 8.3	(143) 51.4	(49) 17.6	(30) 10.8	(30) 10.8	(3) 1.1
	居住システム系	(171) 100.0	(86) 50.3	(21) 12.3	(23) 13.5	(18) 10.5	(21) 12.3	(2) 1.2
	デザインシステム系	(90) 100.0	(14) 15.6	(30) 33.3	(23) 25.6	(5) 5.6	(18) 20.0	(0) 0.0
	その他	(60) 100.0	(2) 3.3	(24) 40.0	(4) 6.7	(6) 10.0	(23) 38.3	(1) 1.7
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0
性別	男性	(1,037) 100.0	(116) 11.2	(519) 50.0	(167) 16.1	(97) 9.4	(125) 12.1	(13) 1.3
	女性	(300) 100.0	(43) 14.3	(81) 27.0	(75) 25.0	(43) 14.3	(54) 18.0	(4) 1.3
	不明	(5) 100.0	(1) 20.0	(0) 0.0	(2) 40.0	(2) 40.0	(0) 0.0	(0) 0.0
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(41) 12.3	(145) 43.4	(69) 20.7	(39) 11.7	(31) 9.3	(9) 2.7
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(55) 11.3	(197) 40.4	(83) 17.0	(59) 12.1	(88) 18.0	(6) 1.2
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(40) 14.8	(126) 46.7	(47) 17.4	(24) 8.9	(32) 11.9	(1) 0.4
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(18) 9.5	(105) 55.6	(35) 18.5	(12) 6.3	(18) 9.5	(1) 0.5
	40歳以上	(52) 100.0	(5) 9.6	(25) 48.1	(7) 13.5	(5) 9.6	(10) 19.2	(0) 0.0
	不明	(9) 100.0	(1) 11.1	(2) 22.2	(3) 33.3	(3) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0

## (3) 従業員規模

修了生が勤務している企業の従業員規模についてみると、従業員規模「1～29人」の企業に勤める者が28.4%と最も多く、次いで「30～99人」の従業員規模が18.6%と続いており、従業員規模100人未満の企業では5割弱の修了生が、1000人未満の企業では8割の修了生が勤めている(表5)。

表5 従業員数 単位:%、( )内は実数

区分	全体	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	不明	
全体	(1,342) 100.0	(381) 28.4	(249) 18.6	(240) 17.9	(207) 15.4	(196) 14.6	(69) 5.1	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(130) 25.6	(99) 19.5	(104) 20.5	(82) 16.1	(76) 15.0	(17) 3.3
	情報システム系	(232) 100.0	(61) 26.3	(47) 20.3	(39) 16.8	(40) 17.2	(27) 11.6	(18) 7.8
	電気電子システム系	(278) 100.0	(57) 20.5	(46) 16.5	(50) 18.0	(55) 19.8	(60) 21.6	(10) 3.6
	居住システム系	(171) 100.0	(78) 45.6	(27) 15.8	(26) 15.2	(13) 7.6	(15) 8.8	(12) 7.0
	デザインシステム系	(90) 100.0	(40) 44.4	(22) 24.4	(10) 11.1	(4) 4.4	(10) 11.1	(4) 4.4
	その他	(60) 100.0	(13) 21.7	(8) 13.3	(11) 18.3	(13) 21.7	(8) 13.3	(7) 11.7
	不明	(3) 100.0	(2) 66.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3
性別	男性	(1,037) 100.0	(275) 26.5	(187) 18.0	(195) 18.8	(177) 17.1	(162) 15.6	(41) 4.0
	女性	(300) 100.0	(103) 34.3	(62) 20.7	(44) 14.7	(30) 10.0	(34) 11.3	(27) 9.0
	不明	(5) 100.0	(3) 60.0	(0) 0.0	(1) 20.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 20.0
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(109) 32.6	(85) 25.4	(56) 16.8	(35) 10.5	(28) 8.4	(21) 6.3
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(140) 28.7	(96) 19.7	(89) 18.2	(70) 14.3	(61) 12.5	(32) 6.6
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(56) 20.7	(33) 12.2	(41) 15.2	(65) 24.1	(64) 23.7	(11) 4.1
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(57) 30.2	(27) 14.3	(37) 19.6	(32) 16.9	(34) 18.0	(2) 1.1
	40歳以上	(52) 100.0	(15) 28.8	(7) 13.5	(14) 26.9	(5) 9.6	(9) 17.3	(2) 3.8
	不明	(9) 100.0	(4) 25.0	(1) 25.0	(3) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 0.0
業種別	建設業	(160) 100.0	(76) 47.5	(30) 18.8	(17) 10.6	(13) 8.1	(19) 11.9	(5) 5.1
	製造業	(600) 100.0	(102) 17.0	(125) 20.8	(134) 22.3	(120) 20.0	(104) 17.3	(15) 5.1
	情報・サービス業	(244) 100.0	(92) 37.7	(44) 18.0	(43) 17.6	(27) 11.1	(26) 10.7	(12) 5.1
	卸小売、金融保険業	(142) 100.0	(57) 40.1	(20) 14.1	(18) 12.7	(14) 9.9	(24) 16.9	(9) 5.1
	その他	(179) 100.0	(51) 28.5	(27) 15.1	(28) 15.6	(32) 17.9	(21) 11.7	(20) 5.1
	不明	(17) 100.0	(3) 17.6	(3) 17.6	(0) 0.0	(1) 5.9	(2) 11.8	(8) 5.1

訓練系別にみると、「300人未満」の企業に勤めている者は、機械システム系及び情報システム系では6割以上、居住システム系及びデザインシステム系では8割弱を占めている。一方、電気電子システム系では「1000人以上」の企業に勤める者が2割以上もいる。概して、修了生は中小規模の企業に勤める者が多いが、訓練系によってやや勤める企業規模にバラツキが見られる。

性別にみると、「100人未満」の従業員規模の企業に勤める者は、男性では44.5%、女性では55.0%を占めており、やや女性の方が男性に比べて従業員規模の小さい企

業に勤める者が多い。

年齢別にみると、25歳以上の年齢では、従業員規模「100人未満」の企業に勤める者が4割強であるのに対して、25歳未満の年齢では6割弱となっている。多くの学生は就職活動に際して、概して就職先企業に安定感を求めるが、近年修了した学生は、日本経済の低迷により求人状況が厳しく、従業員規模の小さい企業へも多くの修了生が就職開拓を行ったことが窺える。

従業員規模別にみると、建設業では「30人未満」の企業で働く者が5割弱、製造業では「300人未満」の企業で働く者が6割、情報・サービス業と卸小売・金融保険業では100人未満の企業で働く者がそれぞれ5割強もあり、修了生は従業員規模の比較的小さい企業で働く者が多い。

#### (4) 勤務形態

修了生がどんな勤務形態で働いているのか尋ねてみると、「正社員・職員」が91.0%、「パート・アルバイト・臨時」が4.1%、「その他」が3.7%を占め、大半の者は正規雇用されている(表6)。

性別にみると、女性では、「パート・アルバイト・臨時」が10.0%と、男性の2.4%に比べ高く、女性にとって雇用環境の厳しさが窺える。

また、業種別にみると、いずれの業種でも約9割の者が「正社員・職員」として勤めているが、その他の業種では「パート・アルバイト・臨時」で勤める者が9.5%もあり、雇用環境が厳しいようである。

表6 勤務形態 単位: %、( )内は実数

区分	全体	正社員・職員	パート・アルバイト・臨時	その他	不明	
全体	(1,342) 100.0	(1,221) 91.0	(55) 4.1	(50) 3.7	(16) 1.2	
性別	男性	(1,037) 100.0	(963) 92.9	(25) 2.4	(33) 3.2	(16) 1.5
	女性	(300) 100.0	(253) 84.3	(30) 10.0	(17) 5.7	0 0.0
	不明	(5) 100.0	(5) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
業種別	建設業	(160) 100.0	(150) 93.8	(3) 1.9	(5) 3.1	(2) 1.3
	製造業	(600) 100.0	(574) 95.7	(10) 1.7	(10) 1.7	(6) 1.0
	情報・サービス業	(244) 100.0	(208) 85.2	(13) 5.3	(20) 8.2	(3) 1.2
	卸小売、金融保険業	(142) 100.0	(125) 88.0	(9) 6.3	(7) 4.9	(1) 0.7
	その他	(179) 100.0	(154) 86.0	(17) 9.5	(8) 4.5	0 0.0
	不明	(17) 100.0	(10) 58.8	(3) 17.6	0 0.0	(4) 23.5



## (5) 現在の役職

現在の役職について尋ねてみると、「一般社員・職員」の者が70.5%と最も多く、次いで、「係長・主任・監督相当」の者が15.5%、「課長相当」以上の者は7.3%となっており、修了生の多くの者が一般社員である(表7)。

性別にみると、男性では「係長・主任・監督相当」の者が19.2%もいるのに対して、女性では僅か3.0%しかいない。さらに、「課長相当」以上の者が男性では8.9%いるのに対し、女性では2.0%であり、女性の間管理職が少ない。

次に、年齢別にみると、25歳未満では大半の者が「一般社員・職員」であるが、年齢が増すに従い、「課長相当」以上の者の比率が増加している。特に「経営者・役員・自営業主」の比率が増し、40歳以上では2割弱もいる。

さらに、業種別にみると、いずれの業種でも「一般社員・職員」が高率となっているが、その中で建設業では「係長・主任・監督相当」が27.5%と、他の業種に比べて高率となっている。これは業態の違いもあるが、建設現場での施工管理などの分野で活躍している現場リーダーが多いためである。

表7 役職

単位: %、( )内は実数

区分	全体	一般社員・職員	係長・主任・監督相当	課長相当	部長・次長	経営者・役員・自営業主	その他	不明	
全体	(1,342) 100.0	(946) 70.5	(208) 15.5	(25) 1.9	(8) 0.6	(65) 4.8	(71) 5.3	(19) 1.4	
性別	男性	(1,037) 100.0	(686) 66.2	(199) 19.2	(25) 2.4	(7) 0.7	(60) 5.8	(47) 4.5	(13) 1.3
	女性	(300) 100.0	(255) 85.0	(9) 3.0	( ) 0.0	(1) 0.3	(5) 1.7	(24) 8.0	(6) 2.0
	不明	(5) 100.0	(5) 100.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(305) 91.3	(4) 1.2	(1) 0.3	( ) 0.0	(20) 6.0	(4) 1.2	
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(386) 79.1	(50) 10.2	(3) 0.6	(2) 0.4	(8) 1.6	(28) 5.7	(11) 2.3
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(161) 59.6	(66) 24.4	(2) 0.7	(1) 0.4	(26) 9.6	(12) 4.4	(2) 0.7
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(76) 40.2	(64) 33.9	(14) 7.4	(4) 2.1	(22) 11.6	(8) 4.2	(1) 0.5
	40歳以上	(52) 100.0	(10) 19.2	(23) 44.2	(5) 9.6	(1) 1.9	(9) 17.3	(3) 5.8	(1) 1.9
	不明	(9) 100.0	(8) 88.9	(1) 11.1	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0
業種別	建設業	(160) 100.0	(90) 56.3	(44) 27.5	(5) 3.1	(1) 0.6	(14) 8.8	(3) 1.9	(3) 1.9
	製造業	(600) 100.0	(448) 74.7	(97) 16.2	(13) 2.2	(3) 0.5	(19) 3.2	(18) 3.0	(2) 0.3
	情報・サービス業	(244) 100.0	(170) 69.7	(31) 12.7	(5) 2.0	(1) 0.4	(18) 7.4	(15) 6.1	(4) 1.6
	卸小売、金融保険業	(142) 100.0	(103) 72.5	(16) 11.3	( ) 0.0	(2) 1.4	(8) 5.6	(11) 7.7	(2) 1.4
	その他	(179) 100.0	(124) 69.3	(20) 11.2	(2) 1.1	(1) 0.6	(6) 3.4	(23) 12.8	(3) 1.7
	不明	(17) 100.0	(11) 64.7	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	(1) 5.9	(5) 29.4
従業員規模別	1～29人	(381) 100.0	(241) 63.3	(26) 6.8	(6) 1.6	(5) 1.3	(61) 16.0	(35) 9.2	(7) 1.8
	30～99人	(249) 100.0	(193) 77.5	(42) 16.9	(4) 1.6	(1) 0.4	(2) 0.8	(6) 2.4	(1) 0.4
	100～299人	(240) 100.0	(166) 69.2	(62) 25.8	(7) 2.9	(1) 0.4	( ) 0.0	(3) 1.3	(1) 0.4
	300～999人	(207) 100.0	(159) 76.8	(40) 19.3	(2) 1.0	( ) 0.0	( ) 0.0	(5) 2.4	(1) 0.5
	1000人以上	(196) 100.0	(144) 73.5	(38) 19.4	(5) 2.6	(1) 0.5	( ) 0.0	(8) 4.1	( ) 0.0
	不明	(69) 100.0	(43) 62.3	( ) 0.0	(1) 1.4	( ) 0.0	(2) 2.9	(14) 20.3	(9) 13.0

従業員規模別にみると、「課長相当」以上の者の比率は30人未満の規模では18.9%、100～300人の規模では29.1%、300人以上の規模では20.0%以上を占めているが、30～99人の規模では僅か2.8%と低率となっている。特筆するところは、30人未満の規模で「経営者・役員・自営業主」が16.0%もいることである。

日本に職業能力開発短期大学校が発足し、修了生が産業界で活躍し始めて、まだ25年と歴史は浅い。産業界で活躍する実践技術者の育成は、短期大学校の直接使命(目標)である。産業界・社会からの評価項目には、産業界のリーダーを何人輩出しているかということも大きな指数である。今後、さらに多くの卒業生が産業界で活躍できるよう、地域の産業界をリードできる人材を修了後も育て上げていくことは、短期大学校の使命である。

#### (6) 現職の所属部門

現在、修了生がどんな部門で働いているかみると、「製造・生産・工事」部門が31.7%と最も多く、次いで、「開発・設計」部門が21.8%、そして「その他」の部門が19.7%、「人事・事務・営業」部門が14.1%と続いており、およそ6割の者がものづくりの第一戦を担っていることが分かる(表8)。

訓練系別にみると、機械システム系と電気・電子システム系、そして居住システム系では「製造・生産・工事」や「開発・設計」部門にそれぞれ5割以上の修了生が配属されているが、情報システム系とデザインシステム系では「その他」を中心に「開発・設計」や「製造・生産・工事」部門に配属されており、訓練系によってやや配属部門に違いがある。

性別でみると、男女ともいずれも「開発・設計」部門に2割強の者が配属されており、男性では「製造・生産・工事」部門(3割強)と「開発・設計」部門(2割強)に、女性では「開発・設計」部門と「人事・事務・営業」部門(それぞれ2割強)そして「その他」の部門(3割弱)に配属され、「製造・生産・工事」部門に配属されている者は1割強となっており、性別によって配属部門に違いが見られる。

女性の場合、「製造・生産・工事」の直接部門に就くのを嫌い、事務などの間接部門に就いているようである。

業種別にみると、建設業と製造業では「製造・生産・工事」や「開発・設計」部門を、情報・サービス業では「開発・設計」や「その他」の部門を、卸小売・金融保険業では「人事・事務・営業」を中心に配属されており、各業種の業態の違いが窺える。

表8 現職の所属部門

単位：%、( )内は実数

区分	全体	研究	開発・設計	管理・企画	人事・事務・営業	製造・生産・工事	情報システム	その他	不明	
全体	(1,342) 100.0	(6) 0.4	(292) 21.8	(82) 6.1	(189) 14.1	(426) 31.7	(63) 4.7	(264) 19.7	(20) 1.5	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(0) 0.0	(96) 18.9	(26) 5.1	(65) 12.8	(222) 43.7	(7) 1.4	(84) 16.5	(8) 1.6
	情報システム系	(232) 100.0	(1) 0.4	(37) 15.9	(12) 5.2	(51) 22.0	(32) 13.8	(44) 19.0	(48) 20.7	(7) 3.0
	電気電子システム系	(278) 100.0	(1) 0.4	(70) 25.2	(15) 5.4	(24) 8.6	(104) 37.4	(11) 4.0	(50) 18.0	(3) 1.1
	居住システム系	(171) 100.0	(0) 0.0	(61) 35.7	(12) 7.0	(24) 14.0	(36) 21.1	(0) 0.0	(36) 21.1	(2) 1.2
	デザインシステム系	(90) 100.0	(0) 0.0	(19) 21.1	(12) 13.3	(11) 12.2	(20) 22.2	(0) 0.0	(28) 31.1	(0) 0.0
	その他	(60) 100.0	(4) 6.7	(8) 13.3	(5) 8.3	(14) 23.3	(11) 18.3	(1) 1.7	(17) 28.3	(0) 0.0
	不明	(3) 100.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0
	性別	(1,037) 100.0	(5) 0.5	(221) 21.3	(66) 6.4	(127) 12.2	(388) 37.4	(38) 3.7	(178) 17.2	(14) 1.4
女性	(300) 100.0	(1) 0.3	(71) 23.7	(16) 5.3	(62) 20.7	(36) 12.0	(24) 8.0	(84) 28.0	(6) 2.0	
不明	(5) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(2) 40.0	(1) 20.0	(2) 40.0	(0) 0.0	
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(2) 0.6	(74) 22.2	(20) 6.0	(45) 13.5	(109) 32.6	(18) 5.4	(62) 18.6	(4) 1.2
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(2) 0.4	(106) 21.7	(32) 6.6	(80) 16.4	(139) 28.5	(21) 4.3	(100) 20.5	(8) 1.6
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(1) 0.4	(64) 23.7	(14) 5.2	(27) 10.0	(91) 33.7	(21) 7.8	(48) 17.8	(4) 1.5
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(1) 0.5	(40) 21.2	(11) 5.8	(27) 14.3	(69) 36.5	(1) 0.5	(38) 20.1	(2) 1.1
	40歳以上	(52) 100.0	(0) 0.0	(7) 13.5	(5) 9.6	(9) 17.3	(15) 28.8	(0) 0.0	(14) 26.9	(2) 3.8
	不明	(9) 100.0	(0) 0.0	(1) 11.1	(0) 0.0	(1) 11.1	(3) 33.3	(2) 22.2	(2) 22.2	(0) 0.0
	業種別	(160) 100.0	(0) 0.0	(47) 29.4	(13) 8.1	(22) 13.8	(56) 35.0	(1) 0.6	(17) 10.6	(4) 2.5
建設業	(600) 100.0	(3) 0.5	(150) 25.0	(36) 6.0	(40) 6.7	(314) 52.3	(10) 1.7	(42) 7.0	(5) 0.8	
製造業	(244) 100.0	(0) 0.0	(71) 29.1	(10) 4.1	(25) 10.2	(20) 8.2	(45) 18.4	(70) 28.7	(3) 1.2	
情報・サービス業	(142) 100.0	(0) 0.0	(17) 12.0	(10) 7.0	(57) 40.1	(28) 19.7	(2) 1.4	(27) 19.0	(1) 0.7	
卸小売、金融保険業	(179) 100.0	(3) 1.7	(6) 3.4	(12) 6.7	(40) 22.3	(5) 2.8	(5) 2.8	(106) 59.2	(2) 1.1	
その他	(17) 100.0	(0) 0.0	(1) 5.9	(1) 5.9	(5) 29.4	(3) 17.6	(0) 0.0	(2) 11.8	(5) 29.4	

## (7) 主な職種

現在の主な職種をみると、「技術職」が36.7%と最も多くを占め、次いで「事務・営業・販売職」が20.6%、「製造・現場管理」が17.9%、「技能職」が13.1%と、技術者として専門性を生かして活躍している者が7割近くである(表9)。

訓練系別にみると、いずれの系でも「技術職」が高い比率を占めているが、情報システム系とその他の系では、「事務・営業・販売職」が「技術職」に比べてやや高率となっており、訓練系によって就いている職種に違いが見られる。

次に、性別にみると、男性では「技術職」や「製造・現場管理」を中心に、女性では「事務・営業・販売職」や「技術職」を中心に勤めている者が多く、性別によって勤める職種に違いが見られる。

さらに、年齢別にみると、いずれの年齢でも「技術職」が高率となっているが、30歳未満と45歳以上では「事務・営業・販売職」の比率が、30～40歳未満では「製

造・現場管理」の比率が、次いで高い。若いときは技術職で勤めている者が多いが、年齢が高くなるに従い、現場の管理業務に仕事が変わり、40歳を超えると、事務部門などに仕事が変わっているようである。

業種別にみると、建設業、製造業、情報・サービス業ではいずれも「技術職」が高率となっている。一方、卸小売・金融保険業とその他業種では「事務・営業・販売職」が高率となっており、業種によって修了生の就いている職種に違いが見られる。

表9 主な職種

単位：%、( )内は実数

区分	全体	事務・営業・販売職	技術職	製造・現場管理	技能職	保安・サービス	運輸・通信	その他	不明	
全体	(1,342) 100.0	(276) 20.6	(492) 36.7	(240) 17.9	(176) 13.1	(39) 2.9	(8) 0.6	(94) 7.0	(17) 1.3	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(74) 14.6	(168) 33.1	(122) 24.0	(84) 16.5	(13) 2.6	(5) 1.0	(34) 6.7	(8) 1.6
	情報システム系	(232) 100.0	(91) 39.2	(73) 31.5	(18) 7.8	(20) 8.6	(4) 1.7	(1) 0.4	(22) 9.5	(3) 1.3
	電気電子システム系	(278) 100.0	(38) 13.7	(127) 45.7	(52) 18.7	(27) 9.7	(15) 5.4	(1) 0.4	(15) 5.4	(3) 1.1
	居住システム系	(171) 100.0	(41) 24.0	(71) 41.5	(26) 15.2	(21) 12.3	(3) 1.8	(1) 0.6	(6) 3.5	(2) 1.2
	デザインシステム系	(90) 100.0	(12) 13.3	(34) 37.8	(15) 16.7	(17) 18.9	(3) 3.3	0	(9) 10.0	0
	その他	(60) 100.0	(20) 33.3	(18) 30.0	(6) 10.0	(7) 11.7	(1) 1.7	0	(7) 11.7	(1) 1.7
	不明	(3) 100.0	0	(1) 33.3	(1) 33.3	0	0	0	(1) 33.3	0
	性別	(1,037) 100.0	(154) 14.9	(399) 38.5	(226) 21.8	(135) 13.0	(32) 3.1	(8) 0.8	(70) 6.8	(13) 1.3
女性	(300) 100.0	(121) 40.3	(92) 30.7	(13) 4.3	(40) 13.3	(7) 2.3	0	(23) 7.7	(4) 1.3	
不明	(5) 100.0	(1) 20.0	(1) 20.0	(1) 20.0	(1) 20.0	0	0	(1) 20.0	0	
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(65) 19.5	(128) 38.3	(54) 16.2	(46) 13.8	(13) 3.9	(3) 0.9	(19) 5.7	(6) 1.8
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(122) 25.0	(167) 34.2	(81) 16.6	(57) 11.7	(10) 2.0	(5) 1.0	(38) 7.8	(8) 1.6
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(44) 16.3	(103) 38.1	(57) 21.1	(33) 12.2	(9) 3.3	0	(22) 8.1	(2) 0.7
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(32) 16.9	(74) 39.2	(37) 19.6	(33) 17.5	(5) 2.6	0	(8) 4.2	0
	40歳以上	(52) 100.0	(11) 21.2	(17) 32.7	(10) 19.2	(6) 11.5	(1) 1.9	0	(6) 11.5	(1) 1.9
	不明	(9) 100.0	(2) 22.2	(3) 33.3	(1) 11.1	(1) 11.1	(1) 11.1	0	(1) 11.1	0
業種別	建設業	(160) 100.0	(33) 20.6	(69) 43.1	(31) 19.4	(20) 12.5	(2) 1.3	(1) 0.6	(2) 1.3	(2) 1.3
	製造業	(600) 100.0	(74) 12.3	(217) 36.2	(197) 32.8	(82) 13.7	(7) 1.2	0	(18) 3.0	(5) 0.8
	情報・サービス業	(244) 100.0	(32) 13.1	(128) 52.5	(6) 2.5	(36) 14.8	(22) 9.0	(1) 0.4	(17) 7.0	(2) 0.8
	卸小売、金融保険業	(142) 100.0	(67) 47.2	(36) 25.4	(4) 2.8	(19) 13.4	(3) 2.1	(5) 3.5	(7) 4.9	(1) 0.7
	その他	(179) 100.0	(64) 35.8	(40) 22.3	(1) 0.6	(18) 10.1	(4) 2.2	(1) 0.6	(50) 27.9	(1) 0.6
	不明	(17) 100.0	(6) 35.3	(2) 11.8	(1) 5.9	(1) 5.9	(1) 5.9	0	0	(6) 35.3
従業員規模別	1～29人	(381) 100.0	(75) 19.7	(145) 38.1	(54) 14.2	(58) 15.2	(12) 3.1	(3) 0.8	(31) 8.1	(3) 0.8
	30～99人	(249) 100.0	(45) 18.1	(86) 34.5	(56) 22.5	(35) 14.1	(8) 3.2	(1) 0.4	(18) 7.2	0
	100～299人	(240) 100.0	(48) 20.0	(85) 35.4	(44) 18.3	(33) 13.8	(7) 2.9	(3) 1.3	(17) 7.1	(3) 1.3
	300～999人	(207) 100.0	(48) 23.2	(86) 41.5	(45) 21.7	(15) 7.2	(3) 1.4	(1) 0.5	(9) 4.3	0
	1000人以上	(196) 100.0	(40) 20.4	(79) 40.3	(33) 16.8	(29) 14.8	(7) 3.6	0	(8) 4.1	0
	不明	(69) 100.0	(20) 29.0	(11) 15.9	(8) 11.6	(6) 8.7	(2) 2.9	0	(11) 15.9	(11) 15.9

## 1-5 現在の仕事への満足度

現在修了生が就いている仕事への満足度について、仕事のやりがいと会社での処遇の面からそれぞれの程度満足しているかを尋ねてみた。

## (1) 仕事のやりがい

修了生が就いている現在の仕事に満足しているどうかを尋ねてみると、「普通」と思っている者が35.0%と最も多く、次いで「やや満足」と感じている者が28.2%、そして「満足」と感じている者が19.1%、「やや不満」を感じている者が11.5%と続いており、今の仕事に満足を感じている者が全体で47.3%である(表10)。

一方、不満を感じている者は全体で16.7%となっており、全体的には今の仕事に満足しているようである。

表10 仕事のやりがい

単位：%、( )内は実数

区分	全体	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	不明	
全体	(1,342) 100.0	(256) 19.1	(379) 28.2	(470) 35.0	(155) 11.5	(70) 5.2	(12) 0.9	
修了 訓練 系別	機械システム系	(508) 100.0	(98) 19.3	(145) 28.5	(170) 33.5	(59) 11.6	(32) 6.3	(4) 0.8
	情報システム系	(232) 100.0	(48) 20.7	(60) 25.9	(84) 36.2	(26) 11.2	(14) 6.0	( ) 0.0
	電気電子システム系	(278) 100.0	(48) 17.3	(75) 27.0	(102) 36.7	(36) 12.9	(13) 4.7	(4) 1.4
	居住システム系	(171) 100.0	(29) 17.0	(51) 29.8	(61) 35.7	(18) 10.5	(9) 5.3	(3) 1.8
	デザインシステム系	(90) 100.0	(20) 22.2	(29) 32.2	(28) 31.1	(10) 11.1	(2) 2.2	(1) 1.1
	その他	(60) 100.0	(12) 20.0	(18) 30.0	(24) 40.0	(6) 10.0	( ) 0.0	( ) 0.0
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(1) 33.3	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0
	性別	(1,037) 100.0	(197) 19.0	(285) 27.5	(364) 35.1	(125) 12.1	(57) 5.5	(9) 0.9
女性	(300) 100.0	(58) 19.3	(94) 31.3	(102) 34.0	(30) 10.0	(13) 4.3	(3) 1.0	
不明	(5) 100.0	(1) 20.0	( ) 0.0	(4) 80.0	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0	
年齢 別	25歳未満	(334) 100.0	(59) 17.7	(93) 27.8	(114) 34.1	(44) 13.2	(19) 5.7	(5) 1.5
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(98) 20.1	(140) 28.7	(165) 33.8	(50) 10.2	(32) 6.6	(3) 0.6
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(53) 19.6	(85) 31.5	(91) 33.7	(31) 11.5	(8) 3.0	(2) 0.7
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(31) 16.4	(47) 24.9	(78) 41.3	(26) 13.8	(6) 3.2	(1) 0.5
	40歳以上	(52) 100.0	(13) 25.0	(13) 25.0	(16) 30.8	(4) 7.7	(5) 9.6	(1) 1.9
	不明	(9) 100.0	(2) 22.2	(1) 11.1	(6) 66.7	( ) 0.0	( ) 0.0	( ) 0.0
業種 別	建設業	(160) 100.0	(28) 17.5	(53) 33.1	(54) 33.8	(17) 10.6	(6) 3.8	(2) 1.3
	製造業	(600) 100.0	(95) 15.8	(166) 27.7	(214) 35.7	(82) 13.7	(40) 6.7	(3) 0.5
	情報・サービス業	(244) 100.0	(50) 20.5	(75) 30.7	(82) 33.6	(26) 10.7	(8) 3.3	(3) 1.2
	卸小売、金融保険	(142) 100.0	(37) 26.1	(40) 28.2	(40) 28.2	(16) 11.3	(9) 6.3	( ) 0.0
	その他	(179) 100.0	(45) 25.1	(41) 22.9	(74) 41.3	(13) 7.3	(6) 3.4	( ) 0.0
	不明	(17) 100.0	(1) 5.9	(4) 23.5	(6) 35.3	(1) 5.9	(1) 5.9	(4) 23.5
従業員 規模 別	1～29人	(381) 100.0	(96) 25.2	(98) 25.7	(127) 33.3	(37) 9.7	(20) 5.2	(3) 0.8
	30～99人	(249) 100.0	(31) 12.4	(76) 30.5	(88) 35.3	(40) 16.1	(14) 5.6	( ) 0.0
	100～299人	(240) 100.0	(36) 15.0	(72) 30.0	(91) 37.9	(26) 10.8	(14) 5.8	(1) 0.4
	300～999人	(207) 100.0	(41) 19.8	(50) 24.2	(83) 40.1	(22) 10.6	(9) 4.3	(2) 1.0
	1000人以上	(196) 100.0	(38) 19.4	(67) 34.2	(58) 29.6	(23) 11.7	(10) 5.1	( ) 0.0
	不明	(69) 100.0	(14) 20.3	(16) 23.2	(23) 33.3	(7) 10.1	(3) 4.3	(6) 8.7

訓練系別にみると、デザインシステム系では、今の自分の仕事に満足している者は、他の訓練系に比べてやや高く、5割強の者がいる。

次に性別にみると、男性で満足と感じている者が46.5%、一方、女性では50.6%となっており、女性の方が男性に比べて仕事に満足している者がやや多い。この理由として、工業系職種に就いていることもあり、男性社員の多い中で同等に仕事をしているからと思われる。

業種別にみると、製造業では満足を感じている者が43.5%と、他の業種の50%以上に比べて、やや低い比率となっている。製造業では、自分の持っている能力を十分発揮できず、厳しい仕事環境の中で働く修了生も多いようである。

従業員規模別にみると、「30～99人」の規模では不満を感じる者が2割強もいるが、一方「30人未満」と「1000人以上」の規模では満足を感じている者が5割強もおり、規模によって修了生が仕事に対する満足度はやや違いが見られる。これは、「30人未満」では従業員数が少なく、他の人がやっている仕事が直接的に理解でき、その上で仕事を任されているから、自分の仕事の位置付けや創意、工夫がやり易いと考えられる。また、「1000人以上」では扱っている仕事内容が高度な専門分野であったり、グループリーダーを担っている者も多いためと考えられる。

## (2) 会社での処遇

修了生が会社で受けている処遇について尋ねてみると、「普通」と感じている者が42.9%と最も多く、「やや不満」と感じる者が19.5%、「やや満足」と感じる者が16.6%である。会社での処遇に不満である者が満足している者よりやや多い(表11)。

訓練系別にみると、居住システム系では処遇に満足している者が35.7%と他の訓練系に比べてやや多く、一方、情報システム系では不満な者が34.5%と他の訓練系に比べてやや多くなっており、会社の処遇に関する満足度は訓練系によって異なっている。

性別でみると、男性では満足を感じている者が全体で24.3%であるのに対し、女性では33.7%と、女性の方が会社での処遇に満足している者が多い。

業種別にみると、建設業、卸小売・金融保険業、その他の業種で、満足と感じている者が、一方、製造業、情報・サービス業では不満に感じている者が、それぞれ全体で3割強であり、業種によって処遇に対する満足度は異なっている。

従業員別にみると、30～999人の規模では不満を感じる者が3割から3割強であり、1000人以上では満足している者がそれぞれ3割強もおり、大企業では処遇に篤く、反面、1000人未満の会社では処遇に薄いということが窺える。

表11 会社での処遇

単位：%、( )内は実数

区分	合計	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	不明	
全体	(1,342) 100.0	(131) 9.8	(223) 16.6	(576) 42.9	(262) 19.5	(130) 9.7	(20) 1.5	
修了訓練系別	機械システム系	(508) 100.0	(48) 9.4	(77) 15.2	(224) 44.1	(91) 17.9	(57) 11.2	(11) 2.2
	情報システム系	(232) 100.0	(23) 9.9	(38) 16.4	(91) 39.2	(57) 24.6	(23) 9.9	( ) 0.0
	電気電子システム系	(278) 100.0	(21) 7.6	(43) 15.5	(128) 46.0	(57) 20.5	(25) 9.0	(4) 1.4
	居住システム系	(171) 100.0	(23) 13.5	(38) 22.2	(62) 36.3	(33) 19.3	(11) 6.4	(4) 2.3
	デザインシステム系	(90) 100.0	(9) 10.0	(18) 20.0	(40) 44.4	(14) 15.6	(8) 8.9	(1) 1.1
	その他	(60) 100.0	(6) 10.0	(8) 13.3	(31) 51.7	(9) 15.0	(6) 10.0	( ) 0.0
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	( ) 0.0	(1) 33.3	( ) 0.0	( ) 0.0
性別	男性	(1,037) 100.0	(91) 8.8	(161) 15.5	(458) 44.2	(204) 19.7	(107) 10.3	(16) 1.5
	女性	(300) 100.0	(39) 13.0	(62) 20.7	(115) 38.3	(57) 19.0	(23) 7.7	(4) 1.3
	不明	(5) 100.0	(1) 20.0	( ) 0.0	(3) 60.0	(1) 20.0	( ) 0.0	( ) 0.0
年齢別	25歳未満	(334) 100.0	(33) 9.9	(58) 17.4	(148) 44.3	(58) 17.4	(33) 9.9	(4) 1.2
	25歳～30歳未満	(488) 100.0	(49) 10.0	(90) 18.4	(193) 39.5	(104) 21.3	(46) 9.4	(6) 1.2
	30歳～35歳未満	(270) 100.0	(26) 9.6	(41) 15.2	(119) 44.1	(52) 19.3	(27) 10.0	(5) 1.9
	35歳～40歳未満	(189) 100.0	(16) 8.5	(26) 13.8	(85) 45.0	(40) 21.2	(19) 10.1	(3) 1.6
	40歳以上	(52) 100.0	(6) 11.5	(8) 15.4	(27) 51.9	(4) 7.7	(5) 9.6	(2) 3.8
	不明	(9) 100.0	(1) 11.2	( ) 0.0	(4) 44.4	(4) 44.4	( ) 0.0	( ) 0.0
業種別	建設業	(160) 100.0	(18) 11.3	(33) 20.6	(68) 42.5	(26) 16.3	(12) 7.5	(3) 1.9
	製造業	(600) 100.0	(40) 6.7	(92) 15.3	(274) 45.7	(128) 21.3	(62) 10.3	(4) 0.7
	情報・サービス業	(244) 100.0	(24) 9.8	(35) 14.3	(94) 38.5	(61) 25.0	(26) 10.7	(4) 1.6
	卸小売、金融保険	(142) 100.0	(23) 16.2	(21) 14.8	(57) 40.1	(19) 13.4	(18) 12.7	(4) 2.8
	その他	(179) 100.0	(25) 14.0	(40) 22.3	(74) 41.3	(26) 14.5	(12) 6.7	(2) 1.1
不明	(17) 100.0	(1) 5.9	(2) 11.8	(9) 52.9	(2) 11.8	( ) 0.0	(3) 17.6	
従業員規模別	1～29人	(381) 100.0	(54) 14.2	(53) 13.9	(155) 40.7	(67) 17.6	(44) 11.5	(8) 2.1
	30～99人	(249) 100.0	(10) 4.0	(45) 18.1	(113) 45.4	(56) 22.5	(24) 9.6	(1) 0.4
	100～299人	(240) 100.0	(14) 5.8	(34) 14.2	(104) 43.3	(56) 23.3	(31) 12.9	(1) 0.4
	300～999人	(207) 100.0	(20) 9.7	(33) 15.9	(89) 43.0	(42) 20.3	(20) 9.7	(3) 1.4
	1000人以上	(196) 100.0	(26) 13.3	(41) 20.9	(86) 43.9	(35) 17.9	(8) 4.1	( ) 0.0
	不明	(69) 100.0	(7) 10.1	(17) 24.6	(29) 42.0	(6) 8.7	(3) 4.3	(7) 10.1

## 1-6 小活

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

- (1) 回答者の属性は、男性が7.5割、女性が2.5割となっており、男女の比が3：1の割合である。年齢でみると、20歳代以下の者と30歳代以上の者の比が6：4の割合となっている。

訓練系別では、機械システム系が37.2%、電気・電子システム系が20.7%、情報システム系が17.3%、居住システム系が12.3%、デザインシステム系が7.4%、その他が4.9%である。訓練科数の多い機械システム系が4割弱を占める。

- (2) 修了時の進路は、就職した者が93.8%と高い就職率を示している。また、就学進学した者は僅か3.5%であった。

- (3) 修了生の就労状況をみると、現在「働いている」者が9割いる。一方、「仕事を探している」者が3.9%であった。性別では、「家事をしている」女性が1割いた。

- (4) 就労している修了生の中で、勤務年数が3年を超えている者は71.0%、5年を超えている者は55.5%である。また、平均勤務年数は7.09年となっている。

就いている業種をみると、「製造業」が4割強と最も多く、次いで「情報・サービス業」が2割弱、「建設業」と「卸小売・金融保険業」がそれぞれ1割強となっており、修了生は従業員規模の比較的小さい企業で働く者が多かった。

主な職種についてみると、「技術職」が4割弱と最も多くを占め、次いで「事務・営業・販売職」が2割強、「製造・現場管理」が2割弱、「技能職」が1割強を占め、技術者として専門性を生かして活躍している者が7割近くである。

所属部門は、「製造・生産・工事」部門が3割強、「開発・設計」部門が2割強、「人事・事務・営業」部門が1割強、「管理・企画」部門が1割弱を占めており、およそ6割の者がものづくりの第一戦を担っている。

勤務形態をみると、「正社員・職員」が91.0%、「パート・アルバイト・臨時」が4.1%、「その他」が3.7%と、大半の者は正規雇用されている。「パート・アルバイト・臨時」が、女性では1割も占め、女性にとって雇用環境の厳しさが窺える。

役職をみると、「一般社員・職員」の者が7割、「係長・主任・監督相当」の者が1.5割、「課長相当」以上の者は1割弱となっている。

- (5) 現在の仕事への満足度について、仕事へのやり甲斐と処遇への満足からみると、次のとおりであった。

仕事のやり甲斐は、「満足」「やや満足」と感じている者が5割弱、一方「やや不



満」「不満」2割弱となっており、今の仕事に満足を感じている者が多かった。

処遇については、満足している者と不満を感じる者がそれぞれ3割弱を占め、会社での処遇に普通と感じている者が4割強もいた。

## 第2節 職務変化と転職の実態

初職に就いてから現在までに何回転職を繰り返し、また、初職では主にどんな仕事を経験してきたのか、初職の概要と退職(転職)の理由について尋ねてみた。

### 2-1 退職(転職)について

#### (1) 退職(転職)の経験

はじめに、今までに退職の経験があるかどうか、また何回退職をしたか回数について尋ねてみた。

退職の有無をみると、「退職していない」と回答した者が59.2%、「退職経験あり」と回答した者が40.8%であり、おおよそ4割の者が退職(転職)の経験を持っている(表12)。

訓練系別にみると、デザインシステム系では、60.4%の者が「退職経験あり」と回答しており、他の訓練系に比べて転職した者が多く占めている。

年齢別にみると、25歳未満では「退職していない」が74.9%と、4分の3の修了生が初職に留まっているが、25歳以上では年齢が高くなるに従い、「退職経験あり」の比率が増加しており、特に25歳未満の25.1%から25歳～30歳未満で40.4%への退職(転職)者の急増が見られる。修了者が初めての会社経験を生かし、本人の多面的な希望に合った会社を選択しようとしているのではないだろうか。

表12 退職経験 単位: %、( )内は実数

区分		全体	退職していない	退職経験あり
全体		(1,499) 100.0	(887) 59.2	(612) 40.8
修了訓練系別	機械システム系	(557) 100.0	(343) 61.6	(214) 38.4
	情報システム系	(259) 100.0	(160) 61.8	(99) 38.2
	電気電子システム系	(310) 100.0	(200) 64.5	(110) 35.5
	居住システム系	(185) 100.0	(103) 55.7	(82) 44.3
	デザインシステム系	(111) 100.0	(44) 39.6	(67) 60.4
	その他	(74) 100.0	(36) 48.6	(38) 51.4
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(2) 66.7
	性別	男性	(1,132) 100.0	(692) 61.1
女性		(362) 100.0	(193) 53.3	(169) 46.7
不明		(5) 100.0	(2) 40.0	(3) 60.0
年齢別	25歳未満	(390) 100.0	(292) 74.9	(98) 25.1
	25歳～30歳未満	(537) 100.0	(320) 59.6	(217) 40.4
	30歳～35歳未満	(300) 100.0	(157) 52.3	(143) 47.7
	35歳～40歳未満	(205) 100.0	(92) 44.9	(113) 55.1
	40歳以上	(57) 100.0	(22) 38.6	(35) 61.4
	不明	(10) 100.0	(4) 40.0	(6) 60.0

## (2) 退職回数

では、退職経験者は、いったい何回の退職(転職)をしているのか、退職回数を調べてみると、「1回」経験者が58.8%と最も多く、次いで「2回」が23.9%、そして「3回」が10.0%と続いており、平均退職回数は1.67回である(表13)。

訓練系別にみると、デザインシステム系では「1回」が49.3%と他の訓練系のおおよそ60%に比べてやや低率となっている。平均回数は、デザインシステム系が1.99回と最も高く、一方、居住システム系が1.51回と最も低くなっている。デザインシステム系では一旦退職(転職)をすると何回も繰り返す者が多く、一方、居住システム系では1~2回退職(転職)しても、自分にあった企業を探し当て、そこに定着している者が多いことが分かる。

性別にみると、平均回数は男性では1.66回、女性では1.70回となっており、やや女性の方が退職(転職)を繰り返す者がやや多い。退職回数1回では、男性の61.8%に対し、女性は50.9%であり少ない。

年齢別にみると、25歳未満では「1回」と回答した者が73.5%と、他の年代に比べて高率となっている。また、平均回数は、25歳以上になると急増し、年齢が高くなるに従い多くなる傾向にある。

表13 退職回数

単位:%、( )内は実数

区分	全体	1回	2回	3回	4回以上	不明	平均回数	
全体	(612) 100.0	(360) 58.8	(146) 23.9	(61) 10.0	(40) 6.5	(5) 0.8	1.67	
修了訓練系別	機械システム系	(214) 100.0	(127) 59.3	(52) 24.3	(22) 10.3	(13) 6.1	(0) 0.0	1.67
	情報システム系	(99) 100.0	(56) 56.6	(28) 28.3	(9) 9.1	(5) 5.1	(1) 1.0	1.61
	電気電子システム系	(110) 100.0	(70) 63.6	(22) 20.0	(8) 7.3	(9) 8.2	(1) 0.9	1.64
	居住システム系	(82) 100.0	(53) 64.6	(16) 19.5	(10) 12.2	(2) 2.4	(1) 1.2	1.51
	デザインシステム系	(67) 100.0	(33) 49.3	(17) 25.4	(7) 10.4	(9) 13.4	(1) 1.5	1.99
	その他	(38) 100.0	(19) 50.0	(11) 28.9	(5) 13.2	(2) 5.3	(1) 2.6	1.74
	不明	(2) 100.0	(2) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	1.00
性別	男性	(440) 100.0	(272) 61.8	(97) 22.0	(39) 8.9	(31) 7.0	(1) 0.2	1.66
	女性	(169) 100.0	(86) 50.9	(48) 28.4	(22) 13.0	(9) 5.3	(4) 2.4	1.70
	不明	(3) 100.0	(2) 66.7	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	1.33
年齢別	25歳未満	(98) 100.0	(72) 73.5	(23) 23.5	(2) 2.0	(0) 0.0	(1) 1.0	1.27
	25歳~30歳未満	(217) 100.0	(128) 59.0	(53) 24.4	(26) 12.0	(7) 3.2	(3) 1.4	1.59
	30歳~35歳未満	(143) 100.0	(82) 57.3	(31) 21.7	(14) 9.8	(16) 11.2	(0) 0.0	1.80
	35歳~40歳未満	(113) 100.0	(56) 49.6	(28) 24.8	(13) 11.5	(15) 13.3	(1) 0.9	1.97
	40歳以上	(35) 100.0	(18) 51.4	(9) 25.7	(6) 17.1	(2) 5.7	(0) 0.0	1.86
	不明	(6) 100.0	(4) 66.7	(2) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	1.33

## 2-2 初職の就業について

## (1) 初職での勤務年数

退職経験者に短期大学校を修了し、初職に何年間就いていたか尋ねてみると、「1年未満」の者が27.8%、次いで「1年以上～2年未満」の者が17.5%、そして「3年以上～5年未満」の者が17.2%と続いており、修了後、およそ6割の修了生が3年間に、5年間ではおよそ8割の者が退職(転職)している。言い換えるならば、5年以上勤めている者はおよそ2割となっている(表14)。

年齢別にみると、25歳未満では、「2年未満」に退職(転職)した者は76.5%もあり、3年未満ではおよそ9割弱の者が退職(転職)をしている。25歳未満の修了生では、最初に就職した会社をすぐに退社したということであり、就職や就業のミスマッチが考えられる。短期大学校修了生の修了時点での年齢はおおむね20歳であるから、4年制大学の学生と異なり、就職、就業に対する意識を高め、視野を広げさせるために、在学中におけるガイダンス等を行うとともに、進学(就学)、就職の相談員(職業カウンセラー)の配置が望まれる。さらに、修了生が常に専門分野での技術の向上が図れるように、フォローアップ対策も検討していく必要がある。

表14 初職勤務年数

単位:%、( )内は実数

区分	全体	1年未満	1年以上 ～2年未 満	2年以上 ～3年未 満	3年以上 ～5年未 満	5年以上 ～10年 未満	10年以 上	不明	
全体	(612) 100.0	(170) 27.8	(107) 17.5	(91) 14.9	(105) 17.2	(99) 16.2	(22) 3.6	(18) 2.9	
修了 訓練 系別	機械システム系	(214) 100.0	(56) 26.2	(36) 16.8	(33) 15.4	(39) 18.2	(34) 15.9	(11) 5.1	(5) 2.3
	情報システム系	(99) 100.0	(32) 32.3	(14) 14.1	(17) 17.2	(21) 21.2	(13) 13.1	(1) 1.0	(1) 1.0
	電気電子システム系	(110) 100.0	(30) 27.3	(22) 20.0	(16) 14.5	(16) 14.5	(20) 18.2	(5) 4.5	(1) 0.9
	居住システム系	(82) 100.0	(21) 25.6	(16) 19.5	(11) 13.4	(15) 18.3	(14) 17.1	(2) 2.4	(3) 3.7
	デザインシステム系	(67) 100.0	(18) 26.9	(10) 14.9	(11) 16.4	(6) 9.0	(14) 20.9	(3) 4.5	(5) 7.5
	その他	(38) 100.0	(13) 34.2	(9) 23.7	(3) 7.9	(7) 18.4	(3) 7.9	0 0.0	(3) 7.9
	不明	(2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(1) 50.0	(1) 50.0	0 0.0	0 0.0
性別	男性	(440) 100.0	(123) 28.0	(81) 18.4	(61) 13.9	(68) 15.5	(73) 16.6	(21) 4.8	(13) 3.0
	女性	(169) 100.0	(46) 27.2	(25) 14.8	(30) 17.8	(36) 21.3	(26) 15.4	(1) 0.6	(5) 3.0
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	0 0.0	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢 別	25歳未満	(98) 100.0	(45) 45.9	(30) 30.6	(11) 11.2	(6) 6.1	(2) 2.0	0 0.0	(4) 4.1
	25歳～30歳未満	(217) 100.0	(59) 27.2	(39) 18.0	(37) 17.1	(45) 20.7	(31) 14.3	0 0.0	(6) 2.8
	30歳～35歳未満	(143) 100.0	(34) 23.8	(17) 11.9	(18) 12.6	(26) 18.2	(40) 28.0	(5) 3.5	(3) 2.1
	35歳～40歳未満	(113) 100.0	(27) 23.9	(13) 11.5	(17) 15.0	(20) 17.7	(23) 20.4	(10) 8.8	(3) 2.7
	40歳以上	(35) 100.0	(4) 11.4	(7) 20.0	(7) 20.0	(7) 20.0	(2) 5.7	(6) 17.1	(2) 5.7
	不明	(6) 100.0	(1) 16.7	(1) 16.7	(1) 16.7	(1) 16.7	(1) 16.7	(1) 16.7	0 0.0

(2) 初職企業の業種

初職に就いた業種をみると、「製造業」が45.9%と最も多く、次いで「情報・サービス業」が23.0%、そして「建設業」が14.9%と続いており、「卸小売・金融保険業」は3.6%と低率である(図5)。

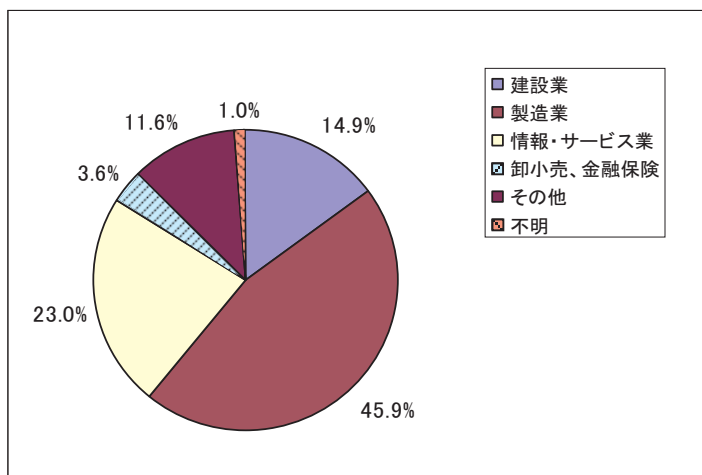


図5 初職に就いた業種

表15 最初の勤務先業種 単位: %、( )内は実数

区分	全体	建設業	製造業	情報・サービス業	卸小売、金融保険	その他	不明	
全体	(612) 100.0	(91) 14.9	(281) 45.9	(141) 23.0	(22) 3.6	(71) 11.6	(6) 1.0	
修了訓練系別	機械システム系	(214) 100.0	(9) 4.2	(144) 67.3	(36) 16.8	(7) 3.3	(16) 7.5	(2) 0.9
	情報システム系	(99) 100.0	(6) 6.1	(39) 39.4	(35) 35.4	(8) 8.1	(11) 11.1	(0) 0.0
	電気電子システム系	(110) 100.0	(6) 5.5	(50) 45.5	(31) 28.2	(1) 0.9	(20) 18.2	(2) 1.8
	居住システム系	(82) 100.0	(55) 67.1	(6) 7.3	(14) 17.1	(3) 3.7	(4) 4.9	(0) 0.0
	デザインシステム系	(67) 100.0	(13) 19.4	(26) 38.8	(12) 17.9	(1) 1.5	(13) 19.4	(2) 3.0
	その他	(38) 100.0	(2) 5.3	(14) 36.8	(13) 34.2	(2) 5.3	(7) 18.4	(0) 0.0
	不明	(2) 100.0	(0) 0.0	(2) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
	性別	男性	(440) 100.0	(56) 12.7	(225) 51.1	(99) 22.5	(9) 2.0	(48) 10.9
女性		(169) 100.0	(34) 20.1	(55) 32.5	(42) 24.9	(12) 7.1	(23) 13.6	(3) 1.8
不明		(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0
年齢別	25歳未満	(98) 100.0	(12) 12.2	(43) 43.9	(21) 21.4	(5) 5.1	(12) 12.2	(5) 5.1
	25歳～30歳未満	(217) 100.0	(39) 18.0	(87) 40.1	(52) 24.0	(9) 4.1	(30) 13.8	(0) 0.0
	30歳～35歳未満	(143) 100.0	(18) 12.6	(76) 53.1	(32) 22.4	(4) 2.8	(13) 9.1	(0) 0.0
	35歳～40歳未満	(113) 100.0	(8) 7.1	(65) 57.5	(28) 24.8	(3) 2.7	(9) 8.0	(0) 0.0
	40歳以上	(35) 100.0	(12) 34.3	(9) 25.7	(7) 20.0	(0) 0.0	(6) 17.1	(1) 2.9
	不明	(6) 100.0	(2) 33.3	(0) 0.0	(2) 33.3	(0) 0.0	(2) 33.3	(0) 0.0

は、現在と比べて5%以上減少

は、現在比べて5%以上増加

修了後の業種間の移動について、修了生の初職業種と現在就いている業種とを比較してみると、5%以上の大きな増減があったものを表15に示す。いずれの区分でも業種間の移動が見られる。初職で占めた業種比率が現在就いている業種(表4)と比較して減少したのは、「建設業」、「製造業」、「情報・サービス業」である。一方、増加したのは、「卸小売・金融保険業」である。修了生が転職する場合の業種は「卸小売・金融保険業」が多いといえる。

### (3) 初職企業の従業員規模

修了後、どんな規模の企業に就職していったかを従業員規模でみると、「30～99人」の規模が24.2%と最も多く、次いで「1～29人」の規模が23.0%、そして「100～299人」の規模が21.1%と続いている(表16)。

初職時と現時の従業員規模(表5)の比率割合を比較してみると、初職時の従業員規模「30～99人」の比率は24.2%から現時には18.6%に減少しており、一方、「1～29人」及び「1000人以上」は5%以上増加している。

いずれの区分別においても「30～999人」の従業員規模の比率は減少し、「1～29人」及び「1000人以上」の比率は増加しており、修了生は小規模または大規模の企業に転職する傾向がある。

表16 従業員数(初職時) 単位:%、( )内は実数

区分	全体	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	不明	
全体	(612) 100.0	(141) 23.0	(148) 24.2	(129) 21.1	(97) 15.8	(57) 9.3	(40) 6.5	
修了訓練系別	機械システム系	(214) 100.0	(38) 17.8	(53) 24.8	(54) 25.2	(34) 15.9	(21) 9.8	(14) 6.5
	情報システム系	(99) 100.0	(23) 23.2	(23) 23.2	(24) 24.2	(12) 12.1	(8) 8.1	(9) 9.1
	電気電子システム系	(110) 100.0	(18) 16.4	(20) 18.2	(22) 20.0	(27) 24.5	(15) 13.6	(8) 7.3
	居住システム系	(82) 100.0	(33) 40.2	(15) 18.3	(14) 17.1	(9) 11.0	(7) 8.5	(4) 4.9
	デザインシステム系	(67) 100.0	(17) 25.4	(28) 41.8	(9) 13.4	(9) 13.4	(2) 3.0	(2) 3.0
	その他	(38) 100.0	(11) 28.9	(9) 23.7	(6) 15.8	(6) 15.8	(4) 10.5	(2) 5.3
	不明	(2) 100.0	(1) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 50.0
性別	男性	(440) 100.0	(100) 22.7	(99) 22.5	(96) 21.8	(76) 17.3	(46) 10.5	(23) 5.2
	女性	(169) 100.0	(40) 23.7	(49) 29.0	(33) 19.5	(20) 11.8	(11) 6.5	(16) 9.5
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(1) 33.3
年齢別	25歳未満	(98) 100.0	(32) 32.7	(29) 29.6	(18) 18.4	(7) 7.1	(3) 3.1	(9) 9.2
	25歳～30歳未満	(217) 100.0	(55) 25.3	(58) 26.7	(48) 22.1	(28) 12.9	(16) 7.4	(12) 5.5
	30歳～35歳未満	(143) 100.0	(16) 11.2	(28) 19.6	(32) 22.4	(35) 24.5	(23) 16.1	(9) 6.3
	35歳～40歳未満	(113) 100.0	(21) 18.6	(24) 21.2	(25) 22.1	(24) 21.2	(11) 9.7	(8) 7.1
	40歳以上	(35) 100.0	(15) 42.9	(8) 22.9	(5) 14.3	(2) 5.7	(4) 11.4	(1) 2.9
	不明	(6) 100.0	(2) 33.3	(2) 33.3	(2) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0

は、現在と比べて5%以上減少

は、現在と比べて5%以上増加

(4) 初職の配属部門

修了生は、入社後どんな部署に配属されて、企業人としてスタートしたか、配属部門を尋ねてみると、「製造・生産・工事」部門に配属された者が35.5%と最も多く占め、次いで「開発・設計」部門に配属された者が23.9%、そして「その他」の部門に15.4%、「人事・事務・営業」部門に13.7%と続いており、ものづくりの中核を担う部門に配属されている者が多い(表17)。

訓練系別にみると、居住システム系とデザインシステム系では「開発・設計」が3割以上を占め、機械システム系と電気電子システム系では「製造・生産・工事」が5割強と3割強をそれぞれ占め、高率となっている。一方、情報システム系では「製造・生産・工事」と「開発・設計」、そして「人事・事務・営業」がそれぞれ2割強を占め、他の訓練系に比べて、広範な部門に配属されている。

性別にみると、男性では「製造・生産・工事」が45.5%と、女性では「開発・設計」が30.8%と、それぞれ高率となっており、性別によって配属部門に違いがみられる。

年齢別にみると、いずれの年代でも「製造・生産・工事」がそれぞれ高率を占めているが、25歳未満では「開発・設計」と「人事・事務・営業」、そして「その他」がそれぞれ2割弱を占め、25歳未満の若い修了生は他の年代の者に比べ、現場から離れた部門で働く者が増える傾向にある。

表17 初職の所属部門 単位:%、( )内は実数

区分	全体	研究	開発・設計	管理・企画	人事・事務・営業	製造・生産・工事	情報システム	その他	不明	
全体	(612) 100.0	(8) 1.3	(146) 23.9	(29) 4.7	(84) 13.7	(217) 35.5	(29) 4.7	(94) 15.4	(5) 0.8	
修了訓練系別	機械システム系	(214) 100.0	(1) 0.5	(43) 20.1	(3) 1.4	(19) 8.9	(112) 52.3	(4) 1.9	(32) 15.0	(0) 0.0
	情報システム系	(99) 100.0	(0) 0.0	(21) 21.2	(4) 4.0	(20) 20.2	(24) 24.2	(14) 14.1	(13) 13.1	(3) 3.0
	電気電子システム系	(110) 100.0	(0) 0.0	(27) 24.5	(1) 0.9	(19) 17.3	(39) 35.5	(10) 9.1	(13) 11.8	(1) 0.9
	居住システム系	(82) 100.0	(0) 0.0	(26) 31.7	(10) 12.2	(14) 17.1	(22) 26.8	(1) 1.2	(9) 11.0	(0) 0.0
	デザインシステム系	(67) 100.0	(0) 0.0	(24) 35.8	(11) 16.4	(4) 6.0	(14) 20.9	(0) 0.0	(13) 19.4	(1) 1.5
	その他	(38) 100.0	(7) 18.4	(4) 10.5	(0) 0.0	(8) 21.1	(5) 13.2	(0) 0.0	(14) 36.8	(0) 0.0
	不明	(2) 100.0	(0) 0.0	(1) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
性別	男性	(440) 100.0	(1) 0.2	(94) 21.4	(18) 4.1	(47) 10.7	(200) 45.5	(20) 4.5	(59) 13.4	(1) 0.2
	女性	(169) 100.0	(7) 4.1	(52) 30.8	(10) 5.9	(36) 21.3	(16) 9.5	(9) 5.3	(35) 20.7	(4) 2.4
	不明	(3) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
年齢別	25歳未満	(98) 100.0	(1) 1.0	(17) 17.3	(7) 7.1	(18) 18.4	(33) 33.7	(4) 4.1	(16) 16.3	(2) 2.0
	25歳～30歳未満	(217) 100.0	(2) 0.9	(48) 22.1	(10) 4.6	(32) 14.7	(66) 30.4	(13) 6.0	(44) 20.3	(2) 0.9
	30歳～35歳未満	(143) 100.0	(3) 2.1	(41) 28.7	(5) 3.5	(20) 14.0	(49) 34.3	(9) 6.3	(16) 11.2	(0) 0.0
	35歳～40歳未満	(113) 100.0	(1) 0.9	(31) 27.4	(3) 2.7	(10) 8.8	(51) 45.1	(3) 2.7	(13) 11.5	(1) 0.9
	40歳以上	(35) 100.0	(1) 2.9	(8) 22.9	(2) 5.7	(2) 8.6	(3) 45.7	(16) 0.0	(5) 14.3	(0) 0.0
	不明	(6) 100.0	(0) 0.0	(2) 33.4	(2) 33.3	(0) 0.0	(2) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0

は、現在と比べ5%以上減少  
は、現在と比べ5%以上増加

## (5) 初職の主な職種

職場に配属された修了生は、どんな職種に就いたかを尋ねてみると、「技術職」が最も多く 37.9%、次いで「製造・現場管理」が 21.7%、「技能職」が 16.5%と技能・技術系の職種が多い(表 18)。

訓練系別にみると、全系とも「技術職」が高く、中でもデザインシステム系、機械システム系が約4割と高率になっている。情報システム系は、他系に比べ事務職の割合が高い。

性別にみると、男性では「技術職」「製造・現場管理」が高くなっているが、女性は「技術職」「事務職」の割合が高くなっている。

年齢別にみると、いずれの年齢でも「技能職」が高くなっているが、25歳未満では「事務職」「営業・販売」の比率が高く、30歳以上では「製造・現場管理」「技能職」の割合が高くなっている。

表18 初職の主な職種

単位: %、( )内は実数

区分	全体	事務職	営業・販売	技術職	製造・現場管理	技能職	保安・サービス	運輸・通信	教員・講師	その他	不明	
全体	(612) 100.0	(54) 8.8	(52) 8.5	(232) 37.9	(133) 21.7	(101) 16.5	(22) 3.6	(2) 0.3	(4) 0.7	(32) 5.2	(4) 0.7	
修了訓練系別	機械システム系	(214) 100.0	(5) 2.3	(13) 6.1	(83) 39	(56) 26.2	(38) 17.8	(10) 4.7	(1) 0.5	(0) 0.0	(8) 3.7	(0) 0.0
	情報システム系	(99) 100.0	(19) 19	(10) 10.1	(34) 34.3	(13) 13	(14) 14	(3) 3.0	(0) 0.0	(2) 2.0	(2) 2.0	(2) 2.0
	電気電子システム系	(110) 100.0	(7) 6.4	(9) 8.2	(40) 36	(23) 20.9	(17) 15	(7) 6.4	(0) 0.0	(1) 0.9	(6) 5.5	(0) 0.0
	居住システム系	(82) 100.0	(11) 13.4	(11) 13	(28) 34	(25) 30	(4) 5	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(3) 3.7	(0) 0.0
	デザインシステム系	(67) 100.0	(4) 6.0	(4) 6.0	(27) 40.3	(9) 13.4	(16) 24	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 1.5	(4) 6.0	(2) 3.0
	その他	(38) 100.0	(5) 13	(3) 7.9	(11) 28.9	(3) 7.9	(6) 15.8	(1) 2.6	(1) 2.6	(0) 0.0	(8) 21	(0) 0.0
	不明	(2) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 50.0	(0) 0.0	(1) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
性別	男性	(440) 100.0	(10) 2.3	(32) 7.3	(160) 36.4	(117) 26.6	(76) 17.3	(20) 4.5	(2) 0.5	(3) 0.7	(19) 4.3	(1) 0.2
	女性	(169) 100.0	(41) 24	(17) 10.1	(63) 37	(11) 6.5	(20) 11.8	(1) 0.6	(0) 0.0	(1) 0.6	(12) 7.1	(3) 1.8
	不明	(3) 100.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(1) 33.3	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
年齢別	25歳未満	(98) 100.0	(11) 11.2	(13) 13	(36) 36.7	(16) 16.3	(11) 11.2	(2) 2.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(7) 7.1	(2) 2.0
	25歳～30歳未満	(217) 100.0	(29) 13.4	(17) 7.8	(72) 33.2	(39) 18.0	(26) 12.0	(12) 5.5	(1) 0.5	(1) 0.5	(18) 8.3	(2) 0.9
	30歳～35歳未満	(143) 100.0	(6) 4	(12) 8.4	(54) 37.8	(36) 25.2	(26) 18	(3) 2.1	(1) 0.7	(2) 1.4	(3) 2.1	(0) 0.0
	35歳～40歳未満	(113) 100.0	(4) 3.5	(5) 4	(49) 43.4	(24) 21.2	(26) 23	(4) 3.5	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 0.9	(0) 0.0
	40歳以上	(35) 100.0	(1) 3	(2) 5.7	(11) 31.4	(12) 34	(6) 17.1	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 2.9	(2) 6	(0) 0.0
	不明	(6) 100.0	(0) 0.0	(1) 16.7	(2) 33.3	(2) 33.3	(1) 16.7	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0

は現在と比べ5%以上減少

は現在と比べ5%以上増加



### 2-3 初職企業の退職理由

初職企業を退職した理由について尋ねてみると、「給与が少ない」が 22.4%と最も多く、次いで、「やりたいことが他にある」が 20.8%、「仕事が面白くない」が 18.6%、「職場の人間関係」が 18.5%、「休暇が少ない・取れない」が 13.7%である(図 6)。

「給与が少ない」「休暇少ない・取れない」など仕事環境条件に関係した理由を挙げた者は全体の 4 分の 3 もいる。また、「やりたいことが他にある」「専門性や資格を生かせない」など仕事内容に関係した理由を挙げた者は全体の半数を超える。

性別で見ると、女性が健康上の理由を挙げた者 36.7%もおり、男性に比べ多く、目立っている(表 19)。なお、訓練系別と年齢別では、あまり大きな差異はみられなかった。

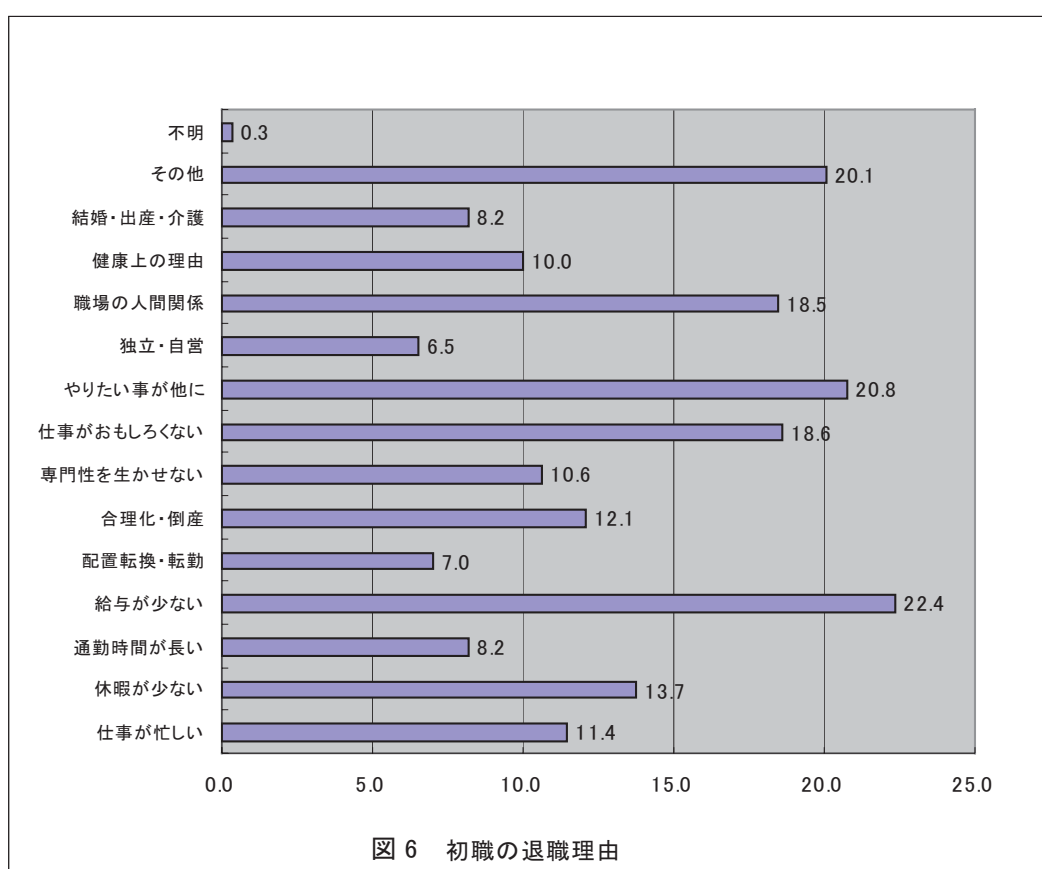


表19 退職の理由

単位: %、( )内は実数、MA

区分	全体	仕事が忙しい	休暇が少ない・取れない	通勤時間が長い	給与が少ない	配置転換・転勤など	事業の縮小・合理化・倒産など	専門性や資格を生かせない	仕事がおもしろくない	やりたい事が他にあった	独立・自営	職場の人間関係の問題	健康上の理由	結婚・出産・介護など	その他	不明	
		(70)	(84)	(50)	(137)	(43)	(74)	(65)	(114)	(127)	(40)	(113)	(61)	(50)	(123)	(2)	
全体	100.0	11.4	13.7	8.2	22.4	7.0	12.1	10.6	18.6	20.8	6.5	18.5	10.0	8.2	20.1	0.3	
性別	男性	100.0	10.7	14.5	7.5	23.9	8.6	13.4	10.9	18.4	20.0	8.6	19.1	8.6	2.3	21.6	0.2
	女性	100.0	23.0	11.2	10.1	18.3	3.0	8.9	10.1	18.3	23.1	1.2	16.6	13.0	23.7	15.4	0.6
	不明	100.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0

## 2-4 再就職について

初職企業を退職後、再就職をどのようにして行ったか、再就職できるまでの期間、業種や労働条件など前職との違いについて、尋ねてみた。

### (1) 再就職の有無

修了生は初職企業を退職後、どのくらいの期間で再就職を行っていたかみてみよう。

はじめに、初職を退職後、再就職したかをみると、「再就職した」と回答した者が87.9% (538人)、「していない」と回答した者が9.8%(60人)おり、およそ9割のものが再就職をしている(図7)。

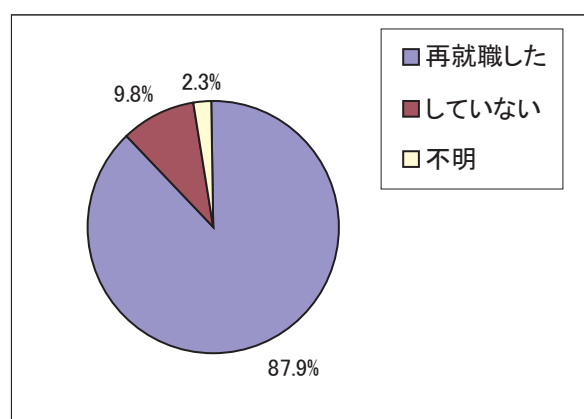


図7 初職を退職後の再就職

### (2) 再就職間での期間

初職企業を退職後、何ヶ月で次の企業に再就職しているのかをみると、「3ヶ月未満」の者が59.5%、次いで「3~6ヶ月未満」の者が12.5%、そして「6ヶ月~1年未満」の者が10.4%と続いており、およそ6割の者が3ヶ月未満の間に次の会社を探して、再就職をしている。また、再就職までの平均月数は7.49ヶ月である(表20)。

訓練系別にみると、再就職までに最も平均月数の短かった訓練系は、居住システム系の6.52ヶ月で、逆に、最も期間の長かった訓練系はその他の訓練系で9.06ヶ月と、訓練系によって再就職までの期間に違いが見られる。

性別にみると、男性は再就職までの平均月数が7.04ヶ月であるのに対し、女性は8.75ヶ月と長い。

年齢別にみると、25歳未満と35歳~40歳未満では「3ヶ月未満」で再就職している者が6~7割弱もいるのに対し、他の年代では5割強である。この高率を考えると、25歳未満の者は若いため求人が多いこと、35歳~40歳未満では職業人生や家族の生活を考えた上で、再就職先を退職前に検討している結果であろう。また、40歳未満のいずれの年代でも6ヶ月以内に再就職している者は7割強であるが、40歳以上では6割強に比率が低下しており、専門分野の能力を有していても、年齢が高いと再就職は

厳しいようである。平均月数をみると、25歳未満での最も短い6.95ヶ月に対し、25歳～30歳未満で8.08ヶ月、30歳～35歳未満で7.66ヶ月と再就職までの月数が長い。雇用保険利用によるスキルアップやフリーターとして、いろいろな職種を経験して再就職を考えているものと思われる。

表20 再就職までの期間

単位：%、( )内は実数

区分	全体	3ヶ月未満	3～6ヶ月未満	6ヶ月～1年	1～2年未満	2～3年未満	3年以上	不明	平均月	
全体	(538) 100.0	(320) 59.5	(67) 12.5	(56) 10.4	(30) 5.6	(17) 3.2	(18) 3.3	(30) 5.6	7.49	
修了訓練系別	機械システム系	(186) 100.0	(115) 61.8	(22) 11.8	(20) 10.8	(8) 4.3	(6) 3.2	(5) 2.7	(10) 5.4	7.04
	情報システム系	(85) 100.0	(50) 58.8	(12) 14.1	(12) 14.1	(5) 5.9	(2) 2.4	(3) 3.5	(1) 1.2	7.87
	電気電子システム系	(95) 100.0	(54) 56.8	(16) 16.8	(9) 9.5	(7) 7.4	(2) 2.1	(3) 3.2	(4) 4.2	7.55
	居住システム系	(79) 100.0	(53) 67.1	(7) 8.9	(5) 6.3	(3) 3.8	(3) 3.8	(2) 2.5	(6) 7.6	6.52
	デザインシステム系	(58) 100.0	(29) 50.0	(7) 12.1	(7) 12.1	(2) 3.4	(4) 6.9	(3) 5.2	(6) 10.3	8.90
	その他	(33) 100.0	(17) 51.5	(3) 9.1	(3) 9.1	(5) 15.2	(0) 0.0	(2) 6.1	(3) 9.1	9.06
	不明	(2) 100.0	(2) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	3.00
	性別	(391) 100.0	(244) 62.4	(45) 11.5	(36) 9.2	(20) 5.1	(11) 2.8	(12) 3.1	(23) 5.9	7.04
女性	(144) 100.0	(74) 51.4	(22) 15.3	(19) 13.2	(10) 6.9	(6) 4.2	(6) 4.2	(7) 4.9	8.75	
不明	(3) 100.0	(2) 66.7	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	6.00	
年齢別	25歳未満	(76) 100.0	(48) 63.2	(6) 7.9	(10) 13.2	(8) 10.5	(1) 1.3	(0) 0.0	(3) 3.9	6.95
	25歳～30歳未満	(189) 100.0	(105) 55.6	(29) 15.3	(21) 11.1	(10) 5.3	(8) 4.2	(7) 3.7	(9) 4.8	8.08
	30歳～35歳未満	(131) 100.0	(73) 55.7	(20) 15.3	(15) 11.5	(8) 6.1	(4) 3.1	(4) 3.1	(7) 5.3	7.66
	35歳～40歳未満	(104) 100.0	(72) 69.2	(9) 8.7	(5) 4.8	(3) 2.9	(4) 3.8	(5) 4.8	(6) 5.8	7.03
	40歳以上	(32) 100.0	(17) 53.1	(3) 9.4	(4) 12.5	(1) 3.1	(0) 0.0	(2) 6.3	(5) 15.6	6.72
	不明	(6) 100.0	(6) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	4.50

### (3) 求人情報の入手

どのようにして再就職先の情報を入手したかは、「職安・短大の職業紹介」が27.9%と最も多く、次いで「就職情報誌等」が25.5%、そして「家族・知人の紹介」が24.2%と続いており、民間の職業紹介による者は僅か4.1%である。修了生は、母校である短期大学校や職安の紹介、求人情報誌、家族・知人など、生活の身近なところから求人情報を得て、再就職をしている(表21)。

訓練系別にみると、居住システム系では「家族・知人の紹介」が、デザインシステム系とその他の系では「就職情報誌等」が、他の系では「職安・短大の職業紹介」がそれぞれ高率となっており、求職情報の入手先に違いがみられる。

性別にみると、男性では「自営・家事」が12.5%であり、女性では「職安・短大の職業紹介」が31.3%と高率となっており、目立っている。

年齢別にみると、30歳未満では「職安・短大の職業紹介」が、30歳～35歳未満と40歳以上では「家族・知人の紹介」が他の入手先よりやや高率となっており、修了

後数年間は母校や安定所などを通して求職情報を入試しているが、年齢が増すに従い、求人誌や家族などから求職情報入手している。

表21 情報収集先

単位: %、( )内は実数、M.A

区分	全体	就職情報誌等	家族・知人の紹介	職安・短大の職業紹介	民間職業紹介	自営・家事	その他	不明	
全体	(538) 100.0	(137) 25.5	(130) 24.2	(150) 27.9	(22) 4.1	(55) 10.2	(70) 13.0	(5) 0.9	
修了訓練系別	機械システム系	(186) 100.0	(46) 24.7	(41) 22.0	(47) 25.3	(8) 4.3	(24) 12.9	(28) 15.1	(4) 2.2
	情報システム系	(85) 100.0	(18) 21.2	(18) 21.2	(29) 34.1	(4) 4.7	(9) 10.6	(10) 11.8	0
	電気電子システム系	(95) 100.0	(21) 22.1	(21) 22.1	(36) 37.9	(4) 4.2	(9) 9.5	(10) 10.5	0
	居住システム系	(79) 100.0	(14) 17.7	(29) 36.7	(21) 26.6	(4) 5.1	(9) 11.4	(6) 7.6	0
	デザインシステム系	(58) 100.0	(27) 46.6	(12) 20.7	(10) 17.2	(1) 1.7	(2) 3.4	(9) 15.5	(1) 1.7
	その他	(33) 100.0	(10) 30.3	(8) 24.2	(7) 21.2	(1) 3.0	(2) 6.1	(7) 21.2	0
	不明	(2) 100.0	(1) 50.0	(1) 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性別	(391) 100.0	(95) 24.3	(94) 24.0	(105) 26.9	(19) 4.9	(49) 12.5	(52) 13.3	(4) 1.0
女性	(144) 100.0	(41) 28.5	(35) 24.3	(45) 31.3	(3) 2.1	(5) 3.5	(18) 12.5	(1) 0.7	
不明	(3) 100.0	(1) 33.3	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	
年齢別	25歳未満	(76) 100.0	(21) 27.6	(15) 19.7	(27) 35.5	(1) 1.3	(2) 2.6	(11) 14.5	(4) 5.3
	25歳～30歳未満	(189) 100.0	(45) 23.8	(38) 20.1	(64) 33.9	(8) 4.2	(15) 7.9	(29) 15.3	0
	30歳～35歳未満	(131) 100.0	(32) 24.4	(40) 30.5	(27) 20.6	(4) 3.1	(20) 15.3	(16) 12.2	(1) 0.8
	35歳～40歳未満	(104) 100.0	(30) 28.8	(26) 25.0	(24) 23.1	(7) 6.7	(15) 14.4	(8) 7.7	0
	40歳以上	(32) 100.0	(8) 25.0	(10) 31.3	(5) 15.6	(2) 6.3	(2) 6.3	(6) 18.8	0
	不明	(6) 100.0	(1) 0.0	(1) 0.0	(3) 100.0	0 0.0	(1) 0.0	0 0.0	0 0.0

#### (4) 業種間の移動

修了生は再就職をする際、同業種に就職しているのか、または他の異業種に就職しているのか、再就職時の業種間の移動についてみると、「異なる業種」に再就職している者が66.5%、「同業種」に再就職をしている者が32.5%であり、3分の2の者が異業種に再就職先を見つけている(表22)。

訓練系別にみると、居住システム系では「同業種」と「異なる業種」が、それぞれほぼ5割であり。例えば、機械システム系修了者の場合、業種を変えても、職種はあまり変わらないし、専門性は十分に生かせる。居住システム系修了者の場合、建設業から製造業や運輸・通信業への移動は職種を変えることであり、専門性やスキルが生かせない。よって、異なる業種への移動が他の修了訓練系より低率となっていると考えられる。

性別にみると、男性では「異なる業種」が61.6%であるのに対し、女性では79.2%と、女性の方が異業種への移動が多い。

年齢別にみると、30歳未満では「同業種」が2割強を占めているが、30歳以上では4割弱～5割弱で推移しており、年齢が増すと同業種にと留まる傾向がある。これは、年齢が増すとその業種での職種に対する専門性が高まってきており、再就職

に当たっては自分が培ってきた専門性を武器に再就職活動を図っていることが窺える。

表22 業種間の移動 単位: %、( )内は実数

区分		全体	同業種	異なる業種	不明
全体		(538) 100.0	(175) 32.5	(358) 66.6	(5) 0.9
修了訓練系別	機械システム系	(186) 100.0	(63) 33.9	(121) 65.1	(2) 1.1
	情報システム系	(85) 100.0	(24) 28.2	(60) 70.6	(1) 1.2
	電気電子システム系	(95) 100.0	(27) 28.4	(67) 70.5	(1) 1.1
	居住システム系	(79) 100.0	(40) 50.6	(39) 49.4	0 0.0
	デザインシステム系	(58) 100.0	(13) 22.4	(44) 75.9	(1) 1.7
	その他	(33) 100.0	(8) 24.2	(25) 75.8	0 0.0
	不明	(2) 100.0	0 0.0	(2) 100.0	0 0.0
性別	男性	(391) 100.0	(146) 37.3	(241) 61.6	(4) 1.0
	女性	(144) 100.0	(29) 20.1	(114) 79.2	(1) 0.7
	不明	(3) 100.0	0 0.0	(3) 100.0	0 0.0
年齢別	25歳未満	(76) 100.0	(16) 21.1	(59) 77.6	(1) 1.3
	25歳～30歳未満	(189) 100.0	(46) 24.3	(141) 74.6	(2) 1.1
	30歳～35歳未満	(131) 100.0	(50) 38.2	(80) 61.1	(1) 0.8
	35歳～40歳未満	(104) 100.0	(48) 46.2	(55) 52.9	(1) 1.0
	40歳以上	(32) 100.0	(14) 43.8	(18) 56.3	0 0.0
	不明	(6) 100.0	(1) 16.7	(5) 83.3	0 0.0

### (5) 職種の変更

では、再就職の際、今まで就いていた職種に再度就いていっているのか、または他の職種に転換していっているのかを見てみる。

以前の職種とは「異なる職種」に変更した者が57.4%、「同職種」の者が27.0%をそれぞれ占めており、およそ6割の者が職種を変更している(表23)。

年齢別にみると、30歳以上の年代では「同職種」の比率が3割強であるのに対し、30歳未満では2割前後であり、20歳代で転職した者は他の年代の者に比べて、他の職種に転職する者がやや多い。

表23 職種の変更 単位: %、( )内は実数

区分		全体	同職種	異なる職種	不明
全体		(538) 100.0	(145) 27.0	(309) 57.4	(84) 15.6
年齢別	25歳未満	(76) 100.0	(14) 18.4	(54) 71.1	(8) 10.5
	25歳～30歳未満	(189) 100.0	(42) 22.2	(111) 58.7	(36) 19.0
	30歳～35歳未満	(131) 100.0	(42) 32.1	(70) 53.4	(19) 14.5
	35歳～40歳未満	(104) 100.0	(35) 33.7	(54) 51.9	(15) 14.4
	40歳以上	(32) 100.0	(11) 34.4	(18) 56.3	(3) 9.4
	不明	(6) 100.0	(1) 16.7	(2) 33.3	(3) 50.0

## (6) 前職との労働環境の違い

再就職をしたことによって、前職に比べてどのように労働環境が変わったかを、修了生に11項目についてそれぞれ回答をしてもらった。その結果を図8に示す。

前職に比べて内容が大きく変わったものとして、「給与」の増加を挙げた者が39.8%、「仕事のやりがい」が増した者が49.3%、「職場環境」や「職場の雰囲気・社風」が良くなったと感じる者はそれぞれ46.7%と44.1%である。

一方、「企業規模」では以前の企業よりも小さな規模で働いている者が51.1%と半数であり、また「修了短大との関係」では、再就職した企業とあまり関係のない企業に再就職した者が52.5%と半数以上いる。

他の項目では、ほぼ同比となっており、余り変化はないようである。

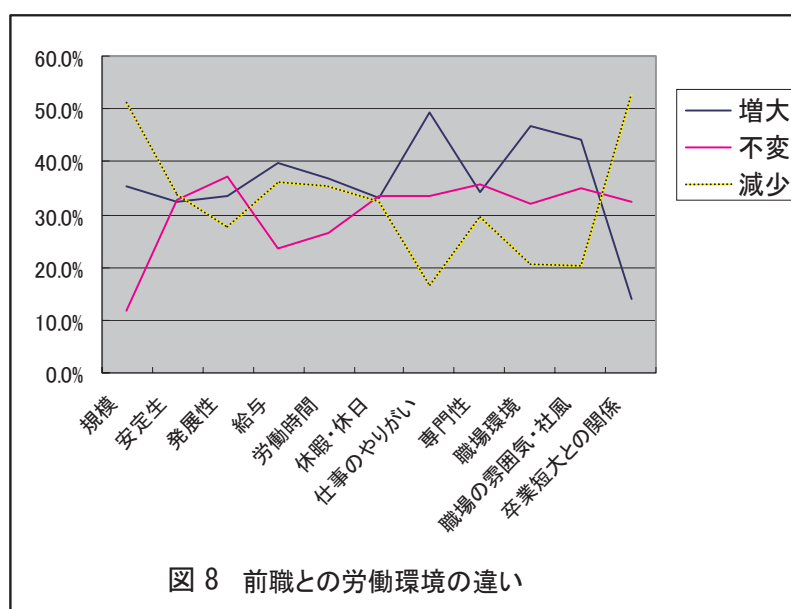


図8 前職との労働環境の違い

## (7) 再就職の際、重要視した項目

また、再就職先を選ぶのに当たって、最も重要視した項目について尋ねてみると、「仕事のやりがい」を挙げた者が31.8%と最も多く、次いで「安定性」が14.5%、そして「給与」が12.3%、「職場環境」が7.4%と続いており、主に「仕事のやりがい」、「安定性」、「給与」の3つの項目を重視して再就職先を選んでいる(表24)。

訓練系別にみると、いずれの系でも「仕事のやりがい」が高率となっている。情報システム系では、「仕事のやりがい」が24.7%、「安定性」が18.8%、「労働時間」が11.8%となっており、他の訓練系に比べて、会社の「安定性」や「労働時間」を重視して再就職先を選んでいる者が多い。また、その他の訓練系では「職場環境」を18.2%の者が重視している。

性別にみると、いずれも「仕事のやりがい」が高率となっているが、女性では「労

働時間」や「職場環境」を挙げた者がそれぞれ 10.4%、一方、男性では「給与」を挙げた者が 13.0%であり、再就職先を選ぶ際に、男女別で違いがみられる。

次に年齢別にみると、25歳未満と40歳以上では「給与」を挙げた者がそれぞれ 14.5%と 15.6%であり、また 25歳～35歳では「職場環境」を挙げた者が 9.7%と、年代によって重要視する項目に違いがある。

表24 再就職の際、重要視した項目 単位：%、( )内は実数

区分	全体	重要視した項目												
		規模	安定性	会社の発展性・将来	給与	労働時間	休暇・休日	仕事のやりがい	専門性・資格の関係	職場環境	職場の雰囲気・社風	卒業短大との関係	不明	
全体	(538) 100.0	(13) 2.4	(78) 14.5	(28) 5.2	(66) 12.3	(30) 5.6	(20) 3.7	(171) 31.8	(37) 6.9	(40) 7.4	(25) 4.6	(3) 0.6	(27) 5.0	
修了訓練系別	機械システム系	(186) 100.0	(6) 3.2	(29) 15.6	(10) 5.4	(25) 13.4	(6) 3.2	(4) 2.2	(61) 32.8	(10) 5.4	(11) 5.9	(11) 5.9	(1) 0.5	(12) 6.5
	情報システム系	(85) 100.0	0 0.0	(16) 18.8	(3) 3.5	(8) 9.4	(10) 11.8	(3) 3.5	(21) 24.7	(5) 5.9	(9) 10.6	(4) 4.7	0 0.0	(6) 7.1
	電気電子システム系	(95) 100.0	(4) 4.2	(14) 14.7	(7) 7.4	(14) 14.7	(1) 1.1	(4) 4.2	(30) 31.6	(10) 10.5	(3) 3.2	(2) 2.1	(1) 1.1	(5) 5.3
	居住システム系	(79) 100.0	(1) 1.3	(8) 10.1	(6) 7.6	(7) 8.9	(4) 5.1	(6) 7.6	(27) 34.2	(7) 8.9	(8) 10.1	(4) 5.1	0 0.0	(1) 1.3
	デザインシステム系	(58) 100.0	(1) 1.7	(7) 12.1	0 0.0	(9) 15.5	(7) 12.1	(2) 3.4	(19) 32.8	(3) 5.2	(3) 5.2	(3) 5.2	(1) 1.7	(3) 5.2
	その他	(33) 100.0	(1) 3.0	(4) 12.1	(2) 6.1	(1) 3.0	(2) 6.1	(1) 3.0	(13) 39.4	(2) 6.1	(6) 18.2	(1) 3.0	0 0.0	0 0.0
	不明	(2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
性別	男性	(391) 100.0	(11) 2.8	(60) 15.3	(26) 6.6	(51) 13.0	(15) 3.8	(16) 4.1	(124) 31.7	(26) 6.6	(24) 6.1	(17) 4.3	(3) 0.8	(18) 4.6
	女性	(144) 100.0	(2) 1.4	(18) 12.5	(2) 1.4	(14) 9.7	(15) 10.4	(4) 2.8	(47) 32.6	(10) 6.9	(15) 10.4	(8) 5.6	0 0.0	(9) 6.3
	不明	(3) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(1) 33.3	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	
年齢別	25歳未満	(76) 100.0	(2) 2.6	(11) 14.5	(5) 6.6	(11) 14.5	(3) 3.9	(4) 5.3	(27) 35.5	(3) 3.9	(2) 2.6	(6) 7.9	0 0.0	(2) 2.6
	25歳～30歳未満	(189) 100.0	(5) 2.6	(27) 14.3	(7) 3.7	(21) 11.1	(12) 6.3	(9) 4.8	(57) 30.2	(9) 4.8	(21) 11.1	(10) 5.3	(1) 0.5	(10) 5.3
	30歳～35歳未満	(131) 100.0	(2) 1.5	(19) 14.5	(5) 3.8	(16) 12.2	(8) 6.1	(2) 1.5	(41) 31.3	(12) 9.2	(10) 7.6	(7) 5.3	(2) 1.5	(7) 5.3
	35歳～40歳未満	(104) 100.0	(3) 2.9	(15) 14.4	(7) 6.7	(12) 11.5	(6) 5.8	(3) 2.9	(37) 35.6	(7) 6.7	(5) 4.8	(2) 1.9	0 0.0	(7) 6.7
	40歳以上	(32) 100.0	0 0.0	(6) 18.8	(4) 12.5	(5) 15.6	(1) 3.1	(2) 6.3	(8) 25.0	(4) 12.5	(1) 3.1	0 0.0	0 0.0	(1) 3.1
	不明	(6) 100.0	(1) 16.7	0 0.0	0 0.0	(1) 16.7	0 0.0	0 0.0	(1) 16.7	(2) 33.3	(1) 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

## 2-5 女性の仕事と結婚感

男女雇用機会均等法が施行され、まだ年数は浅い。女性の卒業生が産業界で今後も活躍していく上で、仕事と結婚についてどのように考えているか、女性のみ尋ねた(表 25)。

「結婚、出産後も仕事を続ける。続けたい。」を挙げた者が 46.4%と、仕事と家庭の両立を望む者が多い。さらに、「育児が一段落ついたら働きたい。」と仕事への復帰を挙げた者が 33.7%であり、これらを合わせると 8割の女性が何らかの形で仕事を続けたい意思を持っているといえる。

訓練系別にみると、情報システム系とその他の系では「出産したら仕事をやめる」を挙げた者が 1割強と、他の訓練系よりやや多い。

また年齢別にみると、30歳未満では「出産したら仕事をやめる」が 1割強を占め、目立っている。

表25 女性の仕事と結婚

単位: %、( )内は実数

区分	合計	結婚、出産後も仕事を続ける。続けたい	育児が一段落ついたら働きたい	結婚したら仕事をやめる	出産したら仕事をやめる	結婚する気はない	不明	
全体	(362) 1.0	(168) 46.4	(122) 33.7	(17) 4.7	(37) 10.2	(2) 0.6	(16) 4.4	
修了訓練系別	機械システム系	(24) 1.0	(14) 58.3	(7) 29.2	(0) 0.0	(2) 8.3	(0) 0.0	(1) 4.2
	情報システム系	(125) 1.0	(56) 44.8	(42) 33.6	(8) 6.4	(15) 12.0	(0) 0.0	(4) 3.2
	電気電子システム系	(37) 1.0	(18) 48.6	(14) 37.8	(0) 0.0	(3) 8.1	(1) 2.7	(1) 2.7
	居住システム系	(80) 1.0	(38) 47.5	(28) 35.0	(3) 3.8	(7) 8.8	(1) 1.3	(3) 3.8
	デザインシステム系	(57) 1.0	(25) 43.9	(17) 29.8	(5) 8.8	(5) 8.8	(0) 0.0	(5) 8.8
	その他	(38) 1.0	(16) 42.1	(14) 36.8	(1) 2.6	(5) 13.2	(0) 0.0	(2) 5.3
	不明	(1) 1.0	(1) 100.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0
	年齢別	25歳未満	(140) 1.0	(61) 43.6	(51) 36.4	(5) 3.6	(17) 12.1	(0) 0.0
25歳～30歳未満		(157) 1.0	(75) 47.8	(50) 31.8	(10) 6.4	(16) 10.2	(0) 0.0	(6) 3.8
30歳～35歳未満		(45) 1.0	(25) 55.6	(12) 26.7	(2) 4.4	(4) 8.9	(0) 0.0	(2) 4.4
35歳～40歳未満		(13) 1.0	(6) 46.2	(6) 46.2	(0) 0.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 7.7
40歳以上		(3) 1.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 33.3	(1) 33.3
不明		(4) 1.0	(1) 25.0	(2) 50.0	(0) 0.0	(0) 0.0	(1) 25.0	(0) 0.0



## 2-6 小活

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

(1) 退職の有無をみると、「退職していない」と回答した者が6割、「退職経験あり」と回答した者が4割である。また、退職回数を調べてみると、「1回」経験者が6割弱、「2回」が2割強、「3回」が1割あり、平均退職回数は1.67回である。

(2) 初職の勤務年数をみると、「1年未満」の者が27.8%、次いで「1年以上～2年未満」の者が17.5%、そして「3年以上～5年未満」の者が17.2%と続いており、修了後、およそ6割の修了生が3年間に、5年間ではおよそ8割の者が退職(転職)している。

初職の業種をみると、「製造業」が45.9%、「情報・サービス業」が23.0%、「建設業」が14.9%、「卸小売・金融保険業」は3.6%である。初職で占めた業種比率が現在就いている業種と比較して減少したのは、「建設業」、「製造業」、「情報・サービス業」である。一方、増加したのは、「卸小売・金融保険業」であり、小規模または大規模の企業に転職する傾向がある。

初職の配属部門をみると、「製造・生産・工事」部門に配属された者が35.5%と最も多く占め、次いで「開発・設計」部門に配属された者が23.9%、そして「その他」の部門に15.4%、「人事・事務・営業」部門に13.7%と続いており、ものづくりの中核を担う部門に配属されている者が多い。

初職の主な職種をみると、「技術職」が最も多く37.9%、次いで「製造・現場管理」が21.7%、「技能職」が16.5%と技能・技術系の職種に就いている。

(3) 初職企業を退職した理由について尋ねてみると、「給与が少ない」が22.4%と最も多く、次いで、「やりたいことが他にある」が20.8%、「仕事が面白くない」が18.6%、「職場の人間関係」が18.5%、「休暇が少ない・取れない」が13.7%である。

「給与が少ない」「休暇少ない・取れない」など仕事環境条件に関係した理由を挙げた者は全体の4分の3もいる。また、「やりたいことが他にある」「専門性や資格を生かせない」など仕事内容に関係した理由を挙げた者は全体の半数を超える。

(4) 再就職の有無をみると、「再就職した」と回答した者が87.9%、「していない」と回答した者が9.8%おり、およそ9割のものが再就職をしている。

再就職までの期間をみると、「3ヶ月未満」の者が6割、「3～6ヶ月未満」の者が1割強、「6ヶ月～1年未満」の者が1割であり、およそ7割の者が6ヶ月未満の間に次の会社を探して、再就職をしている。また、再就職までの平均月数は7.49ヶ月である。

再就職先の情報の入手についてみると、修了生は、母校である短期大学校や職安の紹介、求人情報誌、家族・知人など、生活の身近なところから求人情報を得て、再就職をしている。また、再就職の際、重要視した項目をみると、「仕事のやりがい」、「安定性」、「給与」の3つの項目を重視して再就職先を選んでいる。

再就職時の業種、職種の移動についてみると、「異なる業種」、「異なる職種」に再就職をしている者がおよそ6割いる。

前職との労働環境の違いについて、前職に比べて内容が大きく変わったものとして、「給与」の増加を挙げた者が4割、「仕事のやりがい」が増した者が5割、「職場環境」や「職場の雰囲気・社風」が良くなったと感じる者はそれぞれ5割弱である。

- (5) 女性の仕事と結婚感について、「結婚、出産後も仕事を続ける。続けたい。」を挙げた者が5割弱と、仕事と家庭の両立を望む者が多い。さらに、「育児が一段落ついたら働きたい。」と仕事への復帰を挙げた者が3割強あり、これらを合わせると8割の女性が何らかの形で仕事を続けたい意思を持っている。

### 第3節 職業キャリアの形成

#### 3-1 職業キャリアの形成

修了生はどんな業務を経験しながら、専門性を高めてきているのか、尋ねてみた。

「短大時代の専門技術を生かせる業務を」を挙げたものが46.8%と最も多く、次いで「同じ業務を」を挙げたものが34.3%、「関連業務を」を挙げた者が29.4%と続いており、初職に就いてから、今まで同じ業務またはその関連業務に就いており、短期大学校で習得した専門分野を生かした業務に就いている者が多い(表26)。

表26 職業キャリアの形成

単位:%、( )内は実数、MA

区分	全体	同じ業務を	関連業務を	幅広い業務を	短大時代の専門技術を生かせる業務	より高度な技術を生かせる業務	短大での専門技術が不要な業務を	自分の専門分野を形成しながら転職	キャリア形成に結び付かない転職	先の見通しなく離職	長期間パートやアルバイトだけ	不明	
全体	(1,499) 100.0	(514) 34.3	(441) 29.4	(307) 20.5	(702) 46.8	(383) 25.6	(426) 28.4	(90) 6.0	(102) 6.8	(133) 8.9	(103) 6.9	(74) 4.9	
修了訓練系別	機械システム系	(557) 100.0	(191) 34.3	(160) 28.7	(113) 20.3	(261) 46.9	(140) 25.1	(141) 25.3	(30) 5.4	(31) 5.6	(48) 8.6	(31) 5.6	(33) 5.9
	情報システム系	(259) 100.0	(97) 37.5	(65) 25.1	(56) 21.6	(110) 42.5	(56) 21.6	(92) 35.5	(13) 5.0	(22) 8.5	(27) 10.4	(18) 6.9	(11) 4.2
	電気電子システム系	(310) 100.0	(103) 33.2	(103) 33.2	(67) 21.6	(113) 36.5	(93) 30.0	(97) 31.3	(13) 4.2	(23) 7.4	(22) 7.1	(22) 7.1	(14) 4.5
	居住システム系	(185) 100.0	(64) 34.6	(59) 31.9	(35) 18.9	(107) 57.8	(50) 27.0	(45) 24.3	(13) 7.0	(10) 5.4	(13) 7.0	(13) 7.0	(7) 3.8
	デザインシステム系	(111) 100.0	(37) 33.3	(33) 29.7	(21) 18.9	(68) 61.3	(25) 22.5	(27) 24.3	(13) 11.7	(11) 9.9	(18) 16.2	(13) 11.7	(3) 2.7
	その他	(74) 100.0	(21) 28.4	(21) 28.4	(14) 18.9	(41) 55.4	(18) 24.3	(24) 32.4	(8) 10.8	(5) 6.8	(5) 6.8	(5) 6.8	(6) 8.1
	不明	(3) 100.0	(1) 33.3	0 0.0	(1) 33.3	(2) 66.7	(1) 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(1) 33.3	0 0.0
性別	男性	(1,132) 100.0	(391) 34.5	(356) 31.4	(249) 22.0	(533) 47.1	(319) 28.2	(302) 26.7	(62) 5.5	(72) 6.4	(100) 8.8	(69) 6.1	(53) 4.7
	女性	(362) 100.0	(123) 34.0	(84) 23.2	(58) 16.0	(166) 45.9	(64) 17.7	(123) 34.0	(28) 7.7	(30) 8.3	(33) 9.1	(33) 9.1	(21) 5.8
	不明	(5) 100.0	0 0.0	(1) 20.0	0 0.0	(3) 60.0	0 0.0	(1) 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(1) 20.0	0 0.0
年齢別	25歳未満	(390) 100.0	(156) 40.0	(85) 21.8	(58) 14.9	(167) 42.8	(78) 20.0	(110) 28.2	(8) 2.1	(18) 4.6	(18) 4.6	(23) 5.9	(40) 10.3
	25歳～30歳未満	(537) 100.0	(187) 34.8	(160) 29.8	(126) 23.5	(238) 44.3	(136) 25.3	(175) 32.6	(38) 7.1	(43) 8.0	(54) 10.1	(44) 8.2	(11) 2.0
	30歳～35歳未満	(300) 100.0	(98) 32.7	(94) 31.3	(60) 20.0	(148) 49.3	(94) 31.3	(79) 26.3	(22) 7.3	(28) 9.3	(31) 10.3	(15) 5.0	(10) 3.3
	35歳～40歳未満	(205) 100.0	(61) 29.8	(78) 38.0	(46) 22.4	(111) 54.1	(62) 30.2	(46) 22.4	(16) 7.8	(10) 4.9	(23) 11.2	(18) 8.8	(8) 3.9
	40歳以上	(57) 100.0	(12) 21.1	(21) 36.8	(14) 24.6	(32) 56.1	(12) 21.1	(14) 24.6	(5) 8.8	(3) 5.3	(6) 10.5	(2) 3.5	(5) 8.8
	不明	(10) 100.0	0 0.0	(3) 40.0	(3) 60.0	(6) 60.0	(1) 20.0	(2) 20.0	(1) 20.0	0 0.0	(1) 20.0	(1) 0.0	0 0.0

訓練系別にみると、電気電子システム系では「関連業務を」と「より高度な技術を生かせる業務を」を挙げた者が、それぞれ33.2%と30.0%であり、他の訓練系に比べてやや多く、関連業務に自分の専門性を広げながら、より高度な専門分野を築きあげようとしている者が多いと見られる。また、デザインシステム系では「自分の専門分野を形成しながら転職」する者が11.7%、反面、「先の見通しなく離職」する者が16.2%であり、目立っている。

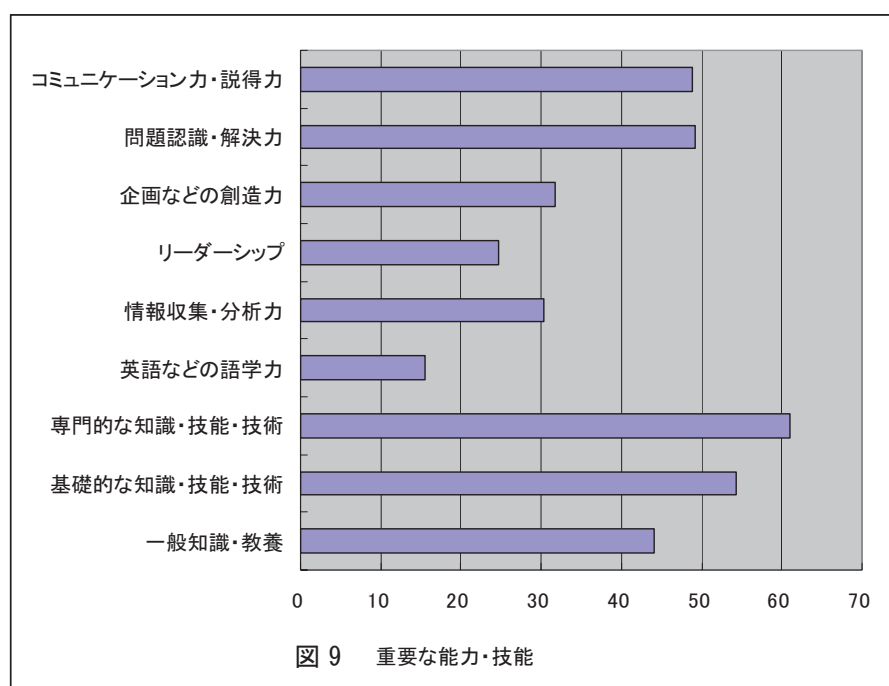
性別にみると、男性では「関連業務を」と「幅広い業務を」を挙げた者がそれぞれ31.4%と22.0%、また「より高度な技術を生かせる業務を」を挙げた者が28.2%であり、女性に比べて、男性の方が自分の業務の幅を広げながら、より専門分野を高めようとしている者が多い。一方、女性では、「短大での専門技術が不要な業務を」を挙げた者が34.0%であり、仕事に対する専門性の志向に性別によって違いがみられる。

次に年齢別にみると、35歳以上では「関連業務を」挙げる者が4割弱、30歳～40歳未満では「より高度な技術を生かせる業務を」を挙げる者が3割強であり、30歳代から業務の幅を広げ、より専門性の高い技術を獲得する者が増えているようである。一方、25歳～30歳未満では「短大での専門技術が不要な業務を」が32.6%、「先の見通しなく離職」が10.1%であり、自分のキャリア形成を修了訓練科の延長線として考えないということの表れだと考えられる。

### 3-2 仕事に重要な能力

今就いている仕事について、その仕事を遂行する上で重要な能力・技能にどんな能力（いくつでも）があるか尋ねてみた。

「専門的な知識・技能・技術」を挙げた者が61.0%と最も多く、次いで「基礎的な知識・技能・技術」が54.3%、そして「問題認識・解決力」が49.2%、「コミュニケーション力・説得力」が48.9%、「一般知識・教養」が44.2%と続いている（図9）。



修了生が就いている仕事に関する基礎的・専門的知識や技術・技能、また、問題の解決能力や仕事相手との会話力・交渉力を重要と感じる者が多い。

年齢別にみると、34歳以下は、「基礎的な知識・技能・技術」「専門的な知識・技能・技術」を重要と考えており、30歳以上では「情報収集・情報分析力」「リーダーシップ」「企画アイデアなどの創造力」「問題認識・問題解決力」を重要と考えている。およそ10年のキャリアで中堅として部下を持ち、指導する立場となり、責任のある立場での意見であろう。

### 3-3 小活

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

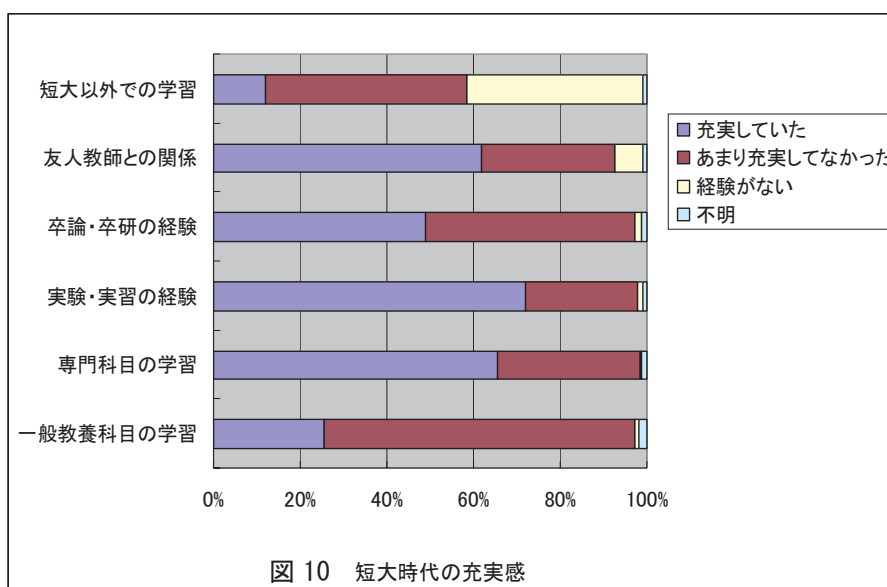
- (1) 修了生はどんな業務を経験しながら、専門性を高めてきているのかについて、「短大時代の専門技術を生かせる業務を」を挙げたものが46.8%と最も多く、次いで「同じ業務を」を挙げたものが34.3%、「関連業務を」を挙げた者が29.4%と続いており、初職に就いてから、今まで同じ業務またはその関連業務に就いており、短期大学で習得した専門分野を生かした業務に就いている者が多い。
  
- (2) 仕事を遂行する上で重要な能力・技能は何かについて、「専門的な知識・技能・技術」を挙げた者が61.0%と最も多く、次いで「基礎的な知識・技能・技術」が54.3%、そして「問題認識・解決力」が49.2%、「コミュニケーション力・説得力」が48.9%、「一般知識・教養」が44.2%と続いている。修了生が就いている仕事に関する基礎的・専門的知識や技術・技能、また、問題の解決能力や仕事相手との会話力・交渉力を重要と感じる者が多い。

## 第4節 短大教育に対する評価、意見

修了生の目から見た短期大学校での教育訓練内容について尋ね、今後充実すべき内容などについて明らかにした。

### 4-1 短大校時代の充実感

短期大学校在学中に受けた教育訓練や訓練以外での経験などについて、充実していたかどうかを、各項目毎に尋ねてみた(図10)。



一般教養科目の学習について尋ねてみると、「あまり充実しなかった」と回答した者が71.8%、「充実していた」と回答した者は25.4%であり、あまり充実していない者と充実した者の比は、およそ3対1の割合であった。

次に、専門科目の学習については、「充実していた」と回答した者が65.6%、「あまり充実しなかった」と回答した者が32.9%、専門科目の充実を感じた者と感じていなかったの者の割合は、およそ2対1のとなっている。

実験・実習の経験については、「充実していた」と回答した者が71.9%、「あまり充実しなかった」と回答した者が26.0%であり、実験・実習の充実を感じた者と感じていない者との割合は、およそ3対1の割合となっている。

卒論・卒研の経験については、「充実していた」と回答した者が49.0%、「あまり充実しなかった」と回答した者が48.2%であり、充実感を感じた者と感じていない者との割合は、およそ1対1の割合となっている。

友人教師との関係やサークル活動については、「充実していた」と回答した者が61.7%、「あまり充実しなかった」と回答した者が31.0%であり、充実感を感じた者と感じていない者との割合は、およそ2対1の割合となっている。

最後に、短大以外での学習や資格取得について見ると、「あまり充実しなかった」と

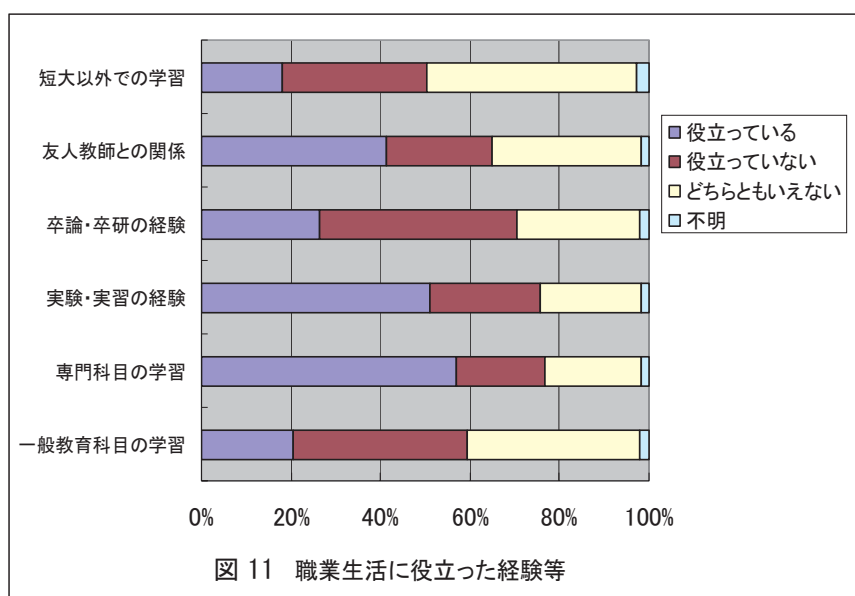
回答した者が 46.8%、「経験がない」と回答した者が 40.5%、「充実していた」と回答した者が 11.9%であり、短大以外の場での学習や資格取得は行われていなかったようである。

全体的にみて、一般教養科目については、カリキュラム上、充実しておらず、少数精鋭の実験・実習を中心とした教育訓練になっていることが現れている。しかし、少数精鋭の少人数教育である弊害もあり、短大校以外での活動の少なさが浮かび上がっている。

#### 4-2 職業生活に役立っている経験等

短大校時代に受けた教育訓練などの経験が、これまでの職業生活に役に立っているかどうか尋ねてみた。

専門科目の学習と実験・実習の経験、そして友人や教師との関係、サークル活動についてみると、「役立っている」がそれぞれ 56.8%と 51.2%、41.4%を占め、高率となっている（図 11）。



一方、一般教養科目の学習と短大以外の場での学習・資格取得では、「役に立っていない」がそれぞれ 39.0%と 32.5%、専門教育は少数精鋭での教育のため、修了後も役立っているようであるが、一般教養・卒論・短大以外での学習などは役に立っておらず、職場では専門性だけを問われているようである。一般教養については僅か 2割程度の者が「役に立っている」と感じている。

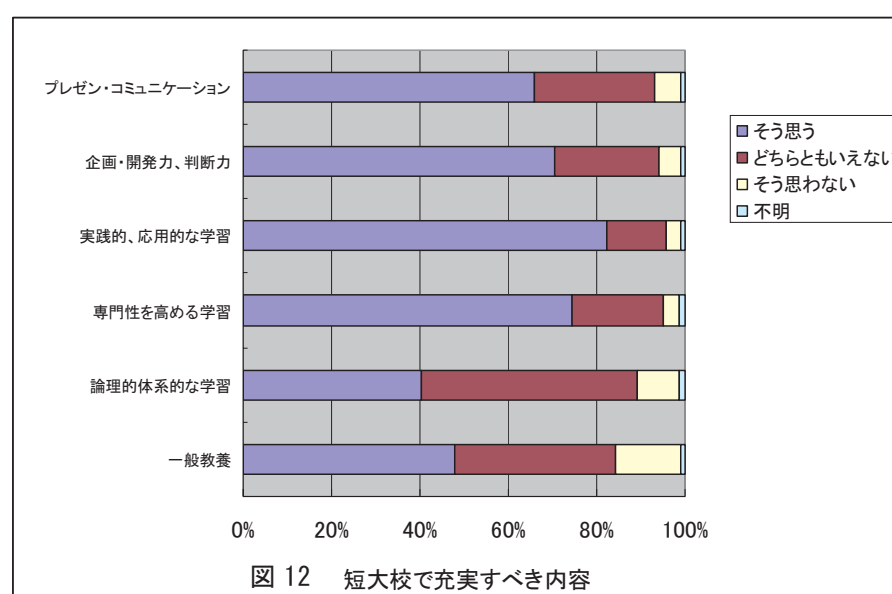
### 4-3 短大教育で充実すべき内容

今後、短大で充実すべき教育訓練内容の6項目について、修了生の考えをそれぞれ尋ねてみた。

「論理的体系的な学習」については、「どちらとも言えない。」とする者が48.9%、「学習する必要がある。」とする者が40.3%となっている（図12）。

一方、「専門性を高める学習」や「実践的・応用的な学習」、「企画・開発力、判断力などの教育」、「プレゼン・コミュニケーションなどの教育」については、それぞれ7割弱～8割強の者が必要性を感じている。

また、「一般教養」については、「身につける必要がある」とする者47.8%、「どちらとも言えない。」が36.4%であり、他の項目に比べ、必要と感じている者はやや少ない。



### 4-4 短大からの情報提供

#### (1) 情報提供の必要性

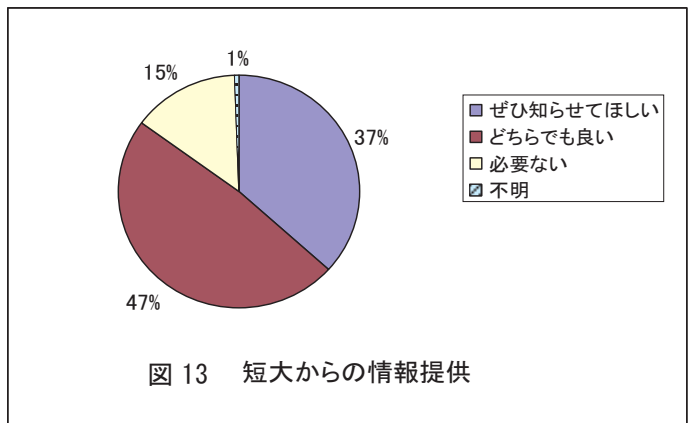
短大からの能力開発セミナーや企業人スクール、学祭、同窓会などの情報提供を望んでいるかどうかについて、尋ねてみた。

「どちらでも良い」が48.2%と最も多くを占め、次いで、「ぜひ知らせて欲しい」が36.8%、「必要ない」が14.5%となっている（図13）。

修了生の中には自分自身の専門性を高めることを望む者や専門性の重要性を感じている者が多いのに対し、その情報については、興味を示す者は4割弱となっている。

母校の情報について、特に、能力開発セミナーや企業人スクールについての内容を知らずに回答したものとも考えられる。



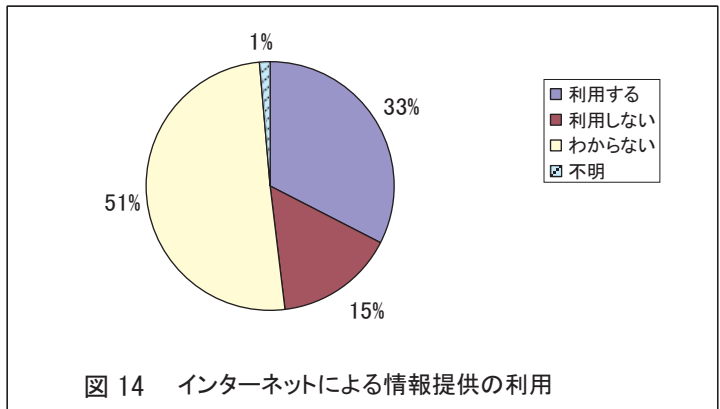


(2) インターネットによる情報提供

短大の関連情報などをインターネットによって情報提供や情報交換、意見交換の場を構築した場合、利用するかどうかを尋ねてみた。

インターネットによる情報提供の利用について、「分からない」と回答した者が50.6%と最も多く、次いで、「利用する」が32.6%、そして「利用しない」が15.3%であり、利用すると回答した者がおよそ3分の1である(図14)。

修了後は、短大の情報にあまり興味を持っている者が少ないことが分かる。



#### 4-5 小活

以上の分析結果をまとめると、次のようになる。

- (1) 短期大学校在学中に受けた教育訓練や訓練以外での経験など、充実していたかをみると、「専門科目の学習」は7割弱、「実験・実習の経験」は7割強、「卒論・卒研の経験」は5割弱、「友人教師との関係やサークル活動」は6割強が充実していると思っている。しかし、「一般教養科目の学習」は2割強しか充実したと思っていない。
- (2) これまでの職業生活にどんな教育訓練などの経験が役に立ったかをみると、「専門科目の学習」を6割の者が、「実験・実習の経験」を5割の者が、「友人や教師との関係、サークル活動」を4割強の者が挙げている。一方、「一般教養科目の学習」を2割の者が、「卒論・卒研の経験」を3割の者しか挙げている。
- (3) 今後、短大で充実すべき教育訓練内容について尋ねてみると、「専門性を高める学習」、「実践的・応用的な学習」、「企画・開発力、判断力などの教育」、「プレゼン・コミュニケーションなどの教育」については、それぞれ7割弱～8割強の者が必要性を感じている。
- (4) 短大からの情報提供について、修了生の中には自分自身の専門性を高めることを望む者や専門性の重要性を感じている者が多いのに対し、その情報については、興味を示す者は4割弱となっている。

短大の関連情報などをインターネットによって情報提供や情報交換、意見交換の場を構築した場合、利用するかどうかについて、「利用する」が3割強、「分からない」が5割であり、利用するとした者が少ないが、環境を整備し、情報発信、情報提供等の内容をニーズのあるもとすれば拡大できるであろう。

## 第5節 自由記述のまとめ

短大に対する意見や後輩に対するアドバイスなどの自由記述をまとめたものである。自由記述欄の記入者数は529名おり、回答者数の3分の1以上である。

以下の4つの区分に分類し自由記述をまとめ、代表的な意見を列記した。

また、その他多くの意見をいただいているので、原文を巻末の資料として掲載している。

A：短大での教育貢献（短大校の教育が役に立っています。）

- 専門知識、技能、技術が役に立っている。
- 実験、実習で得たことが役に立っている。
- 企画、設計、製作一連の過程を学んだことが役に立っている。
- 実践的な学習が役に立っている。
- 少人数制であったので、生徒・先生のコミュニケーションが得られた。
- 授業料が安い。
- 設備・環境が良かった。
- 就職時の評価が高い。

B：後輩への激励（後輩の皆さん頑張って下さい。）

- 基礎を中心に学ぶことが重要です。
- 幅広い知識や経験が必要です。
- コミュニケーションが大事です。
- トライする心を養ってほしい。
- 資格取得することが必要です。
- 就職は、自分のしたい仕事を考えて決める。

C：短大校への要望（短大校側でこの点を考えていただきたい。）

- 職場体験実習を行い、職業選択、就業意識に役立つのではないかな。
- 卒業生による就職（体験）講話、意見交換などしてはどうか。
- 試作・実験を行なう中小企業に機材の提供（貸出）をしてはどうか。
- 新しい知識、技術の指導・教育をしてほしい。
- 即戦力となるような実践的教育、企業との共同研究の充実を図ってはどうか。
- 短大の社会的認知、準学士の資格、文部系大学への編入を図ってはどうか。
- 企業とのネットワーク、情報提供、ワークショップ等があると良い。
- 社会人としてのマナーや挨拶など人間形成も必要である。
- 分かりやすい指導・教育をして欲しい。

D：近況報告（何とかやっています。）

- 母校の閉校、廃科、先生の移動は残念です。
- 充分満足できる就業状況でないのが残念です。